

平成27年度
運営諮問会議報告書

(ホームページ公開用抜粋版)

平成28年6月



熊本高等専門学校
National Institute of Technology, Kumamoto College

まえがき

熊本高専では、高度化再編にあたり、学校の理念を定めました。専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成および科学技術による地域社会への貢献を使命とするというものであります。この理念に沿って、カリキュラムが編成され、教職員一同一丸となって多岐にわたる業務に邁進しております。

少子高齢化をはじめとする社会状況の変化により、高専をめぐる外部情勢にも大きな動きが出てきております。文部科学省では、平成26年度に実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関に関し有識者による議論を進め、その制度化に向けて平成27年度には中央教育審議会へ諮問を行っています。これは一部の専門学校などから新たな専門職業大学への昇格を目指す動きです。国立高等専門学校機構でも、校長会などで、専攻科の充実、7年一貫教育、学位授与機関への移行などの議論を進めています。文部科学省でも、高専の将来を考える協力者会議が、また自民党内では高専を考える議員連盟の設立やこれを受けた文部科学部会のプロジェクトチームが立ち上がっており、議論が進められています。平成27年度中には一定の方向性が示される予定です。いずれの議論においても、国立高専のこれまでの教育に関する評価は極めて高く、その重要性はゆるぎないものですが、社会の要請に応じた改革の努力が不可欠であることは言うまでもありません。

さて、高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられており、評価結果は公表されます。本校は、平成28年秋に、この評価を受けることとしております。そこで、今回の運営諮問会議では、これら評価項目に関わる本校の活動状況をご報告申し上げ、ご指導を頂戴することといたしました。

今回、八代キャンパスで開催される運営諮問会議は、熊本高専として第6回目となります。委員の皆様にはお忙しい中ご出席賜り、長時間熱心にご審議頂きました。心よりお礼申し上げます。地域の各界のリーダーであられる委員の皆様から頂きましたご指摘、ご助言は、本校の運営に活かして参る所存です。

委員の皆様のご理解とご支援に厚く感謝申し上げます。

平成28年3月

熊本高等専門学校長 長谷川 勉

目次

まえがき

1. 熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿	1
2. 熊本高等専門学校運営諮問会議規則	2
3. 日程等	4
4. 出席者名簿	5
5. 平成26年度の提言等に対する改善に向けた対応	7
6. 平成27年度運営諮問会議でのご意見等の要旨	12
7. 平成27年度の会議における提言事項	19
8. 話題提供資料	22

1. 熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿

任期：平成27年4月1日～平成29年3月31日まで
(※ 平成27年4月1日～平成28年3月31日まで)

会長

※ 村 山 伸 樹 国立大学法人熊本大学工学部長

委員

足 立 國 功	熊本県工業連合会会長
荒 木 義 行	合志市長
伊 藤 英 典	熊本県商工観光労働部商工労働局長
亀 田 英 雄	熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会長
櫻 井 一 郎	櫻井精技株式会社代表取締役社長
中 村 貞 二	熊本県中学校校長会会長
中 村 博 生	八代市長
平 田 雄一郎	平田機工株式会社代表取締役社長
松 下 純一郎	熊本日日新聞社取締役
松 村 民 雄	熊本高等専門学校熊本キャンパス同窓会長

(委員氏名は五十音順で記載)

2. 熊本高等専門学校運営諮問会議規則

平成23年5月17日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本高等専門学校内部組織規則第9条第2項の規定に基づき、熊本高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 諮問会議は、熊本高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動等の状況について評価及び助言等の提言を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次に掲げる事項について、校長の諮問に応じて評価等を実施するものとする。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の運営に関する事項

(組織)

第4条 諮問会議は、本校の職員以外の者で次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 本校の所在する地方自治体の関係者
- (3) 本校の所在する地域の教育関係者
- (4) 本校の所在する産業・経済界の関係者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) 本校を卒業又は修了した者
- (7) その他高等専門学校に関して広くかつ高い識見を有する者

(委嘱)

第5条 委員は、校長が委嘱する。

(任期)

第6条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第7条 諮問会議に、会長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

2 会長は、諮問会議を招集し、その議長となる。

3 会長に事故があるときは、校長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第8条 会長が必要と認める場合は、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(開催)

第9条 諮問会議の開催は、原則として年1回とし、開催場所は熊本キャンパスと八代キャンパスにおいて交互に開催する。

(事務)

第10条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年5月17日から施行する。
- 2 この規則施行後最初に委嘱される第4条の委員の任期は、第6条の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

3. 日 程 等

日 時 : 平成27年11月18日(水)

会 場 : 熊本高等専門学校 八代キャンパス (大会議室)

次 第

13:30～14:00 受付

14:00～14:10 開会 (校長挨拶)、日程説明、出席者の紹介等

14:10～14:20 前年度提言等に対する改善に向けた対応について

14:20～15:50 話題提供・協議

【テーマ】「熊本高専の活動状況に関する自己点検評価結果についての外部評価」

【説明者】全体概要：開 豊 (八代キャンパス副校長)

教育活動：下田貞幸 (八代キャンパス教務主事)

学生支援活動：古嶋薫 (八代キャンパス学生主事)

研究活動：小田明範 (八代キャンパス総務主事)

15:50～16:00 外部評価結果のまとめ

16:00 閉会 (校長謝辞)

4. 出席者名簿

【出席委員】

会長（議長）

村山伸樹（国立大学法人熊本大学工学部長）

委員

足立國功（熊本県工業連合会会長）

伊藤英典（熊本県商工観光労働部商工労働局長）

甲斐壮一（熊本日日新聞社編集局論説委員）

※松下純一郎 委員（熊本日日新聞社取締役）の代理

亀田英雄（熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会長）

田口智弘（櫻井精技株式会社管理グループ主任技師）

※櫻井一郎 委員（櫻井精技株式会社代表取締役社長）の代理

中村貞二（熊本県中学校校長会会長）

平田雄一郎（平田機工株式会社代表取締役社長）

藤井勝公（合志市副市長）

※荒木義行 委員（合志市長）の代理

松村民雄（熊本高等専門学校熊本キャンパス同窓会長）

水本和博（八代市経済文化交流部次長）

※中村博生 委員（八代市長）の代理

（委員氏名は五十音順で記載）

【学校関係者】

長谷川 勉（校長）

開 豊（副校長・八代）

下 塩 義 文（副校長・熊本）

下 田 貞 幸（教務主事・八代）

松 田 豊 稔（教務主事・熊本）

古 嶋 薫（学生主事・八代）

大 石 信 弘（学生主事・熊本）

小 林 幸 人（寮務主事・八代）

小 山 善 文（寮務主事・熊本）

小 田 明 範（総務主事・八代）

永 田 正 伸（総務主事・熊本）

村 田 美友紀（共通教育科准教授・八代）

※ICT活用学習支援センター長の代理

小 松 一 男 (人間情報システム工学科教授)
※ICT活用学習支援センター副センター長の代理
清 田 公 保 (地域イノベーションセンター長)
田 中 禎 一 (地域イノベーションセンター副センター長)
小田川 裕 之 (PBL・総合教育センター長)
上土井 幸 喜 (PBL・総合教育センター副センター長)
米 沢 徹 也 (共通教育科長・八代)
草 野 美智子 (共通教育科長・熊本)
浦 野 登志雄 (建築社会デザイン工学科長)
田 浦 昌 純 (生物化学システム工学科長)
葉 山 清 輝 (情報通信エレクトロニクス工学科長)
大 塚 弘 文 (制御情報システム工学科長)
孫 寧 平 (人間情報システム工学科長)
木 場 信一郎 (生産システム工学専攻長)
村 上 純 (電子情報システム工学専攻長)
伊 藤 利 明 (自己点検評価委員会委員長)
池 田 直 光 (自己点検評価委員会副委員長)
宇ノ木 寛 文 (英語担当教員・八代)
高 木 朝 子 (英語担当教員・熊本)
愛 場 優 治 (事務部長)
内 山 慎 一 (総務課長)
三 原 和 宏 (管理課長)
前 田 俊 哉 (学務課長)
浦 口 健 一 (学生課長)

5. 前年度提言等に対する改善に向けた対応について

※資料の概要説明

次頁に示します「平成26年度運営諮問会議での提言等に対する改善に向けた対応」は、前回の運営諮問会議（平成26年11月25日開催）において、本校の教育研究活動等に対する各委員からの貴重なご意見等を整理、取りまとめられた上、運営諮問会議会長名によりいただいた提言等事項を、本校において改善に向けた対応の方策等について検討した結果です。

この改善に向けた対応は、両キャンパスの運営会議に報告し、学校全体で取り組む課題として共通認識され、今後も引き続き改善に取り組んでいくことにしています。

改善に向けた対応は、以下に示すとおり、既に改善が実施されているものから改善には今後十分な検討を要するものまで、4つの対応区分で分類しています。

対応区分	A=改善に向けた対応を、実施しているもの
	B=改善に向けた対応を、直ちに行う必要があるもの
	C=改善に向けた対応を、将来的に行う必要があるもの
	D=改善に向けた対応には、十分な検討が必要なもの

今回受けた2項目の提言事項は、それぞれを以下のように整理しています。

【提言等事項】

運営諮問会議会長名により受けた提言等事項

【提言に関するご意見等抜粋】

提言等事項に該当する委員の方からのご意見等の部分を抜粋したものです。

【対応区分】

提言等の現状確認を行い、対応の進展状況を、上記の4つの区分で分類したものです。

【改善に向けた対応】

提言等に対する具体的な改善方策を取りまとめたものです。

平成26年度運営諮問会議での提言等に対する改善に向けた対応

- 対応区分 : A=改善に向けた対応を、実施しているもの
B=改善に向けた対応を、直ちに行う必要があるもの
C=改善に向けた対応を、将来的に行う必要があるもの
D=改善に向けた対応には、十分な検討が必要なもの

提言1

【提言等事項】

英語教育について、学生が興味や意欲を持って学習に取り組める仕組みを考えてもらいたい。

【提言に関するご意見等抜粋】

「亀田委員(八代キャンパス同窓会長)」

学生の意欲をかきたてるようなやり方を考えて実行すればいいのではないか。

「平田委員(平田機工社長)」

負荷をかけてやらせようとしても、興味がないとできないのではないか。

興味があることは千差万別なので、自分に合うものを選んで勉強するしかないと思う。

「村山委員(熊大工学部長)」

モチベーションや興味のあるものに仕向ける方法はどうすればいいのか、ということではないか。

「中村委員(八代市長)」

海外で刺激を受け、英語を頑張ろうと思うような環境を作ることが大事ではないか。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

提言内容を大きく捉えると、「学生の興味は個人個人で異なり、学生の意欲を引き出すためには、学校で良い教材や良い環境を提供し、学生がその中から選択することが大切」になると思われます。このことからキーワードとして、「多様性」と「提供」そして「選択」の3つを抽出しました。

このキーワードに則して、現在熊本高専で行っていること、そして今後改善していく必要があることを以下のとおり整理しました。

「多様性」に関しては、3年次の「英語Ⅲ」をコース別授業としており、外国人講師による会話中心コース、資格試験対策コース、英語表現コース、英語多読コースなどを開講し、学生が自分の目的や興味により「選択」できるようにしています。また、5年次の「国際言語文化論」では、第2外国語に文化的内容を加えた授業内容にして、英語、独語、中国語、韓国語から「選択」するようになっています。

「提供」に関しては、正課以外に以下のような学習機会を「提供」しています。

話すことに興味がある学生は、毎年九州・沖縄地区国立高専英語弁論大会に、暗唱の部とスピーチの部に計3名まで参加することができます。しかし、毎回多数の参加希望者がいるため、校内で選考会を実施している状況です。

また、平成26年度より放課後に英会話講座を開講し、外部から講師を招いて一講座8名の少人数で3ヶ月程度を1クールとして実施しています。

1・2年生に対しては、「MER(multicultural exchange room)」という「多文化交流ルーム」で、熊本市内の外国人留学生や本校の留学経験者による英語インタビューを行い、「ミニ・留学」の場を「提供」しています。

さらに、e-learningを活用したものとして、英検対策のe-CATを1年後期から3年前期までの丸2年間ライセンス契約しており、学校でも自宅からでも自由に学習することができる環境を「提供」し、2年・3年で全員受験する「英検」の準備勉強になっています。

以上、提言での指摘に基づいて、「多様性」「提供」学生の「選択」の観点から、対応状況等を整理しましたが、これらのことから、提言の対応については、概ね達成していると考えます。

今後は、学生達の意見を聴きながら、さらにより良い取り組みに練り上げていくことが肝要だと認識しているところです。

さらに、上記の学習環境を効果的な学習につなげるもう一つ重要なキーワードがあるとなれば、「自発性」であるとも考えます。

例えば英語の基礎力を向上させる一つの方策として、様々な形での音読は必要不可欠なトレーニングですが、こうした反復を伴う基礎トレーニングは、運動競技におけるフィジカルトレーニング同様必ず効果が上がる半面、強いモチベーションが必要で、実際に習慣化するには工夫が求められます。そこで、教材として、例えば英語歌詞の音楽等の音声メディアや映画・ドラマなどの映像メディアを活用することによって、特に英語に対して消極的な学生に対しても学習の動機付けを図り、授業外でも興味をもって自発的に学習やトレーニングに取り組めるように工夫し、上記の学習環境を最大限活用できるように改善していきたいと考えます。

以上ほんの一例ですが、「自発的学習」に学生を導くための方策は、継続して工夫していく所存です。

提言2

【提言等事項】

グローバルに対応した人間力やワールドワイドな発想力を有する学生を育成するとともに、地元熊本の歴史や文化などを理解し発信できる、社会学的な教育にも取り組んでもらいたい。

【提言に関するご意見等抜粋】

「宮尾委員(県商工労働局長)」

英語はつきつめれば、コミュニケーション力あるいは人間力だと思う。

「足立委員(県工業連合会長)」

カリキュラムやテキストだけではなく、人間的な付き合いの中で語学を学んでもいいのではないか。

グローバル人材の育成には、ワールドワイドな発想力がなくてはいけないので、考慮していただきたい。

「荒木委員(合志市長)」

引込み思案で英語嫌いにならないよう、積極的に出て行けるように後押しをしてもらいたい。

「松村委員(熊本キャンパス同窓会長)」

実際に外国人の方と友達になりコミュニケーションをとることは、とても勉強になると思う。

「松下委員(熊本日日新聞取締役)」

グローバル化はローカル化と言われる。世界に通用するには、地元のことを知って発信できるようにすることで、他国の人の信頼を得ることができるのではないか。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

「グローバル化に対応した人間力やワールドワイドな発想力を有する学生を育成」については、平成26年度運営諮問会議の資料でご説明した取り組みを中心に、今後も取り組んでいきたいと考えています。

カリキュラムの中で全体的に取り組んでいるものとしては、3年次の夏休み後半に実施している「異文化理解」の講義があり、インド哲学、タイ事情、JICAによる国際協力、世界の宗教など、グローバルに活躍する際に必要な基本的な知識を、九州・沖縄地区の全高専に対してTV配信しています。今のところ受講者はあまりありませんが、今後も受講生が増えるよう工夫して、継続的に教育していきたいと考えています。

また、課外活動においては、さまざまな国からの短期留学生との交流、またこちらからの各国への短期訪問、海外インターンシップなどを組み合わせて、在学中にできるだけ多くの学生に海外の国や人に対する多くの経験ができるような機会を提供していきたいと考えています。本校には、国費留学生、マレーシア政府留学生、短期留学生など、様々な留学生が来校し、学習に励んでいます。彼らとの交流は、それ自体が「いながらにしてできる異文化交

流」であり、この機会を活用することはグローバル人材育成の第一歩として必ず効果がある
と信じています。

また、留学生との交流を通して、異文化に対する関心や理解を深めるだけでなく、自らの
文化についても発信していく機会を設定していますが、今後は熊本キャンパスイングリッシ
ュクラブと八代キャンパス英語研究部が連携して、本校に来訪する留学生との国際交流活動
を充実させることなどを通じて、他の日本人学生へも交流の機運が高まっていけばと思っ
ています。

さらに、留学を希望する学生に対し、その前段階として、低学年を対象に1泊2日或いは
2泊3日程度の English Camp のような試みができないかとも考えています。キャンプでは
Japanese free の環境を提供することで、擬似留学を体験し、結果として英語への興味を深
め、学習へのモチベーションにつなげるとともに、本校に在学している留学生の参加を得る
ことにより、異文化理解の機会になればと考えています。加えて、高専機構国際交流協定締
結校も含めて、さらなる海外研修の機会を設定することができればとも考えています。

次に、「地元熊本の歴史や文化などを理解し発信できる、社会学的な教育の取り組み」につ
いては、カリキュラムで対応できる部分と、それ以外の課外活動で対応するものとの組み合
わせて、取り組んでいきたいと考えています。カリキュラムにおいては、日本史等の中で、
熊本出身の偉人（肥後勤王党の宮部鼎蔵や河上彦斎、肥後実学党の横井小楠、憲法制定や教
育勅語渙発における井上毅や元田永孚、平民主義や国家主義の思想家として徳富蘇峰、第2
次護憲運動で清浦奎吾など）や、熊本の風土・歴史（軍都としての熊本、神風連の乱や西南
戦争など士族反乱、屯田兵で熊本の開拓団、閔妃暗殺と熊本県人、水俣病など）について取
り上げております。

課外活動においては、ハンセン病について菊池恵楓園との交流活動（見学、清掃ボランテ
ィア）、大学コンソーシアム熊本における江津湖清掃活動、閃きイノベーションを通じた地域
企業の課題解決、社会を教室とした教育活動（日奈久温泉街再生支援、新幹線駅八代駅前プ
ロジェクトなど）などのさまざまな取り組みを通じて取り組んでいきたいと考えています。

6. 平成27年度運営諮問会議要旨

○開副校長の説明概要「自己点検評価方法等の全体概要」

大学や高専は、教育・研究や組織運営等に関して、毎年自己点検を行い7年ごとには大学評価学位授与機構から認証評価を受けることが義務化されている。

本校は高度化再編し来年度が7年目になるため、認証評価を受ける予定。

自己点検書は3月までに大学評価学位授与機構へ提出し、来年度は自己点検書に基づき実地審査を受ける予定。

自己点検は、学校運営全般に関する基本的な11の基準と2つの選択的基準で行う。

各基準には基本的な観点が示されており、当該観点について自己点検書を作成する。

自己点検書は、分析した結果と根拠を示し、優れた点や改善を要する点を自己点検してまとめる形式になっている。

今回の自己点検評価で留意したポイントは、本校は2つのキャンパスを有しているため、一つの学校として統一した教育体制が出来ているか、学生指導の在り方が揃っているか、が問われると思われるため、今回の説明を聞いていただき、アドバイス等をいただきたい。

○下田教務主事の説明概要「教育に関する点検と評価結果」

教育活動の基準である、基準3、基準5、基準6の3つの基準に関して、自己点検評価した結果を報告する。

基準3「教員及び教育支援者の状況」の優れた点

- ・十分な教員数を配置し専門学科教員の96%が博士の学位を有している。
- ・大学評価学位授与機構の資格審査に合格した教員を配置している。
- ・教育活動の評価では、授業アンケート等によって授業内容を評価している。
- ・教員の採用は企業経験者を積極的に採用し、模擬授業を課して学生とのコミュニケーション力も考慮している。
- ・教員の年齢構成はバランスよく構成されている。他機関や企業の経験者も相当数あり、在外研究や内地研究等の教員の交流も推進している。

基準5「教育内容及び方法」の優れた点

- ・育成する人材像に応じた学科の目標や教育目標を設定しカリキュラムを設計している。
- ・成績評価や単位認定は学生自身が確認できる仕組みを設けている。
- ・フィールドワークや学生が自主的に授業に関わっていくアクティブラーニングを取り入れ、地域と協働・連携した授業を積極的に行っている。

基準6「教育の成果」の優れた点

- ・資格取得や学会・コンテスト等への参加を積極的に推進している。
- ・就職率は100%であり、進学は国立の大学や大学院への進学率も高い。

改善を要する点

- ・ 学生自身による達成度の自己評価が、熊本キャンパスでは実施されていない。

○教育に関する点検評価結果についての意見交換「委員からの意見等の抜粋」

【委員のご意見】 自己点検評価にあたり、一つの学校として統一した教育体制ができているかを留意しているとのことだが、それぞれのキャンパスには歴史があり、独自性を出してもいいのではないか。

企業経験者を積極的に採用する必要性を具体的に表現したがいいのではないか。また、学生 1400 名に対して十分な教員を配置しているとあるが、比較対象が不明なので、この点も具体的に説明していただきたい。

[熊本高専の回答：開副校長] 本校に入学する学生が、キャンパスが異なることでデメリットが生じるのはいけないと考えている。学校の中で育つ環境として、特に低学年は揃えておく必要があると考えている。

[熊本高専の回答：下田教務主事] 企業経験者を積極的に採用するのは、教員も多様な人材、多様な経験を持つ人材があることで、幅広い教育ができると考えているためである。

十分な教員数がある根拠は、八代キャンパスは複合学科であり、他高専より教員数が多く配置されていること、高度化再編した際に学科を減らしたが、教員は減らさず維持したので、他高専より教員が十分に配置されているとした。

【委員のご意見】 一つの高専になったということは、そこに目標を掲げていたということなので、その目標にきちっと向かっているかということが重要ではないか。

一つの高専になったことで、何が出来て、何が出来ていないのか、そこを自己評価して欲しい。

【委員のご意見】 基準 6 の教育の成果での改善を要する点に、八代キャンパスでは学生による教育到達目標の達成度評価が出来ているが、熊本キャンパスでは出来ていないとある。八代キャンパスで実施してどのような成果があるのか。

[熊本高専の回答：下田教務主事] 八代キャンパスでは、4 年生時、1 年後の 5 年生時、卒業時の 3 段階で、学習・教育到達目標に対し、自分がどの程度達成したかを自己評価させている。このことで、自分がどのようなことをやってきたのか、どれだけ力を付けたのかを、自ら判断し確認することができ、自分の力を明確に判断できるという点に効果があると思われる。

【委員のご意見】 なぜ熊本キャンパスで出来ていなかったのか、キャンパス間の意思疎通が出来ていなかったという点を、きちんと自己点検評価しないといけないのではないか。

[熊本高専の回答：長谷川校長] 高度化再編して 5 年が経過し、こういう点が自己点検し

て始めて気がついたということだと思われる。自己点検により、これまで出来ていなかった部分等の問題点を明確にして、良いことは取り入れて、これから改善していきたい。

【委員のご意見】 地域からの視点で、地域性というのは大事にしていきたい。就職率は100%とのことだが、その中で、県内に就職している学生はどれくらいで、就職後の早期退職の状況はどうか、教えていただきたい。

[熊本高専の回答：長谷川校長] 昨年、卒業後のキャリア調査を行った結果、両キャンパスとも、熊本県内に最初に就職したのが約2割で、現在の勤め先は、両キャンパスとも熊本県内が3割になる。よって、約1割が熊本に戻ってきている状況である。勤め先を九州内に広げると、約5割の卒業生が九州内に勤務している結果になる。

離職の状況は、個人個人を追跡して調査するのが難しいため、データとして持ち合わせていない。

【委員のご意見】 基準5の点検結果の授業の工夫のところ、学生が主体的・能動的に関わるとあるが、具体例をあげてほしい。また、学生が自己点検シートを記入して確認するとあるが、自己点検シートをどのように活用しているか教えていただきたい。

[熊本高専の回答：下田教務主事] 学生が主体的・能動的に関わっていくため、一方的に講義をするのではなく、学生にグループで議論をさせながら授業を進め、授業に主体的に関わらせている。また、学生が自分達で直接地域の方にインタビューすることなどもやっている。

自己点検シートは、学生が自分で試験等への取り組み方を判断することと、自己点検した結果は、担任が保護者面談等で活用することをやっている。

○古嶋学生主事の説明概要「学生支援に関する点検と評価結果」

基準7の学生支援について、学生生活、課外活動、経済面、学生寮、の4つの支援状況に絞って、自己点検した結果を説明する。

「学生生活に対する支援」の点検結果

- ・クラス担任がよく機能しており、学生相談室や保健室で学生の健康管理や生活上の問題に対応する体制が整えてある。

「課外活動に対する支援」の点検結果

- ・クラブ活動が顧問の指導のもと活発に行われ、課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制のもと機能している。

「経済面に対する支援」の点検結果

- ・奨学金制度や入学料・授業料の免除及び猶予制度が整備されており、経済面の指導・相談・助言を行う体制が整備され機能している。

「学生寮に対する支援」の点検結果

- ・寮生は日課表に従い規則正しい生活をしており、寮務委員会や当直教員、学生寮役員の指導のもと、生活・勉学の間として有効に機能している。

○学生支援に関する点検評価結果についての意見交換「委員からの意見等の抜粋」

【委員のご意見】 相談室への相談件数は把握されているようだが、担任や教員に相談があった件数などは、記録しているのか？

[熊本高専の回答：古嶋学生主事] 各担任は、相談を記録したメモ等は残していると思うが、具体的な記録については、今回は調査していない。

【委員のご意見】 学生支援は、身近な担任や指導教員等がどのように対応したのかということが大事である。各担任が相談にきちんと対応して、その状況を統計的にまとめておくことが、やらなくてはいけないことではないか。

[熊本高専の回答：古嶋学生主事] 今後は、ご指摘のあった点も対応していきたい。

【委員のご意見】 経済面の支援の中で授業料等の説明があったが、熊本高専は他の高専よりも安いのか？ 高専はどこも同じであれば、熊本の支援体制として評価するのはおかしいのではないか。

[熊本高専の回答：古嶋学生主事] 授業料は全国の高専が一律なので、熊本だけが安いというのではない。

【委員のご意見】 授業料が安いのは国立高専としての評価であって、熊本高専の特徴として、どういう支援があるのかということ点を点検、評価しないと行けないのではないか。経済面の支援は、学生寮の支援に関して何か特徴を出してもいいのではないか。

【委員のご意見】 自己点検結果は、何のために誰に対する点検結果なのかが疑問である。総花的に、「なんでも良い。」という評価になっているように見えるが、自己評価なので、自分に厳しく評価するべきではないか。

[熊本高専の回答：長谷川校長] 自己点検は制度的に実施しなければならないものであり、自己点検の手順等もきちんと決められている。自分に厳しく評価することも必要であるが、今回は学校教育法に基づき、大学評価学位授与機構に自己点検評価した結果を提出するというものである。

【委員のご意見】 外部企業からの資金援助はあるのか？ 資金援助がある場合、昔と今では変化はあるのか？

当方の役員には、当社からの援助で高校に行き当社に就職した者がいる。また、当社

は熊大の留学生に対しても学費援助をしている。このように、外部企業から資金を受け入れる体制はあるのか？

[熊本高専の回答：長谷川校長] 学生に対する奨学金であれば、地元の教職員の団体からの援助があるが、これは本校に限った支援ではない。特定の企業から本校への支援は今のところない。

ただし、企業からの支援の窓口を閉じているわけではなく、支援をしていただけたら、有効活用させていただきたいと思っている。

【委員のご意見】 優秀な学生が学費面で苦労しないよう、支援したいと思っている。アメリカの学校は企業からの支援が充実しているが、このように企業と学校の結びつきを強くすることはできないのかと思ったところである。

【委員のご意見】 熊本のことをどこで教えているのか？ COC+では、地元の熊本に就職させるため、熊本高専も取り組むことになるので、熊本のことを教えるのはどうしているか、お聞きしたい。

また、クラブ活動は、熊本キャンパスと八代キャンパスで分かれているが、クラブも統合して、総合力を上げて、全国大会での活躍を目指すというようなことは考えていないのか、お聞きしたい。

[熊本高専の回答：長谷川校長] 熊本のことは、社会科で歴史的なものは教えている。また、各専門課程に入ってから、各学科の専門に応じて地元の企業等を訪問している。科目として「熊本学」というのはないが、今後、COC+による取り組みで体制を整えたい。

クラブ活動は、両キャンパスの距離が離れているため、時間的、コスト的なことで距離の制約が大きく、統合することができない状況である。ただし、ロボコンについては、合同練習で互いに切磋琢磨して高め合いながら、組織的にできている。

【委員のご意見】 中学校の義務教育では、いじめ、不登校の問題、特別な支援が必要な子供たちへの配慮など、たくさんの課題があり、いろいろな調査をしてトラブルの実態を把握することに努めているが、高専では、どのような方法で生活の中でのトラブルを把握し、対応しているのか？

[熊本高専の回答：古嶋学生主事] 両キャンパスで生活に関する実態調査をやっており、いじめのことなど調査に書かれている内容を確認し、担任や学生委員会で対応している。

また、機構本部が全高専の学生に自殺予防アンケートをやっており、自殺の兆候がある学生には、担任や学生委員会が本人と面談し、対策を講じている。

[熊本高専の回答：下田教務主事] 中途退学者は年間1～2%程度であるが、中途退学の学生に対しては、担任が窓口になり、退学後の進路を含めてしっかり面倒を見た上で、出て行かせるようにしている。退学後は大学を受験するなどの進路変更が多い。

○小田総務主事の説明概要「研究活動に関する点検と評価結果」

研究活動を点検する観点とは、1. 本校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され機能しているか、2. 研究の目的に沿った活動の成果があげられているか、3. 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され機能しているか、となっている。

「研究体制及び支援体制」の点検結果

- ・体制は適切に整備され機能している。

「研究活動の成果」の点検結果

- ・学術論文等の数は目標値を超えているが、個人では未達成者もいる。
- ・科研費の獲得は増加傾向にあるが、国の運営費交付金が減少する中、共同研究等の外部資金と同様に、より一層の強化が必要である。

「改善を図っていくための体制」の点検結果

- ・研究活動の問題点等を把握し、改善を図っていく体制を整備して機能している。

○研究活動に関する点検評価結果についての意見交換「委員からの意見等の抜粋」

【委員のご意見】 科研費の獲得が倍増したことは大変良いことだが、評価をする際は、どのような分野が特長的に伸びているかを踏まえ、どの研究が進んで、どの研究がまだこれからである、というところを自己点検して評価することが大事である。

【委員のご意見】 共同研究の内容は、ホームページや資料等で公開しているか？

[熊本高専の回答：長谷川校長] 共同研究の企業名は、企業からの要望もあり、公開していない。

公開は、相手企業の意向があるため、件数は公開しているが、研究課題名も公開していない。

【委員のご意見】 そうすると、何が共同研究できるのか分からないと思うが、高専と共同研究するには、どういう判断基準になるのか？

[熊本高専の回答：長谷川校長] 科研費のテーマは公開しているので、その研究テーマから共同研究の可能性は、ある程度ご想像いただけるかもしれない。

また、地域イノベーションセンターが企業との窓口となって活動しており、コーディネーターが企業の相談に応じて、高専ができることを紹介している。

地域の企業との共同研究等を強力に進めていくため、指摘のあった部分は今後の課題と認識し、検討したいと思う。

【委員のご意見】 研究シーズみたいなものは把握しているのか？

[熊本高専の回答：長谷川校長] 研究シーズ集は発行している。

[熊本高専の回答：清田教授] 本校ホームページの各教員のところに、教員の専門のシーズが掲載されており、研究の成果が見えるようリンクしてある。

研究シーズ集は十分に活用されていないため、重点化させ、本校に配置の九州地区の拠点コーディネーターが、企業とのネットワークを構築し、九州地区各高専の研究情報を企業に紹介するようにしている。

しかし、まだ研究シーズの活用が不十分なので、改善を検討したいと思う。

【委員のご意見】 熊本キャンパスとは包括連携協定を結び、高専からアイデアをいただき、連携が深まっている。今後も高専と連携しながら、行政を進めていきたい。

お願いとして、熊本キャンパスではなく、合志キャンパスというように、合志を入れていただきたい。熊本高専は合志市にあることを考慮していただければありがたい。

【委員のご意見】 高専が県内に2か所あることをデメリットではなく、2か所あるメリットを考えてはどうか。地域の企業との連携が、2か所あることで、県内に広く企業と連携していくことができる可能性があると思われる。2つに分かれているというより、2つの拠点があるというメリットで、教育研究に活かしていただきたい。

地域を学ぶ、地域の歴史・文化を学ぶのは非常に重要なことなので、推進していただきたいが、同時に、現在の熊本の産業、主に製造系になるが、そういうことも学生に学んでもらいたい。現在の熊本の姿をしっかり認識することをカリキュラムの中に反映していただきたい。

【委員のご意見】 自己点検は国の基準に従って行っているとのことだが、いろいろな項目で自己点検評価するのであれば、熊本高専が合併してどうだったのか、その点の自己点検評価というのもあっていいのではないか。

例えば、科研費の獲得が合併してどうなったのか、地域企業との連携が合併してどうなったのか、熊本キャンパスと八代キャンパスがコラボして、こういう成果があったということを点検評価することで、国からの評価も高くなるのではないかと思う。

7. 平成27年度運営諮問会議における提言事項

平成27年度熊本高等専門学校運営諮問会議は、同校が実施した教育研究活動等に関する自己点検評価について、同会議において確認・評価した結果、以下のとおり提言します。

【教育活動に対する提言事項】

提言1	高度化再編し、一つの高専になるために掲げていた当初の目標の達成度や、高度化再編したことによる実績・成果を、きちんと自己点検評価してもらいたい。
提言2	学生による教育到達目標の達成度評価や、学生が主体的・能動的に関わる授業など、熊本高専が独自に工夫していることについて、自己点検評価してもらいたい。
提言3	地域性を大事にして、学生が地元へ就職し定着するように、地域や地元の産業のことを学べる教育に取り組んでももらいたい。

「教育活動に関する自己点検評価結果」に対する意見等抜粋

- 自己点検評価にあたっては、一つの学校として統一した教育体制ができているかを留意したとのことだが、それぞれのキャンパスには歴史があり、独自性を出してもいいのではないかな。
- 一つの高専になるにあたって掲げていた目標に、きちっと向かっているかを点検評価することが重要であり、一つの高専になったことで、何ができて、何ができていないのかを自己評価して欲しい。
- 八代キャンパスで学生による教育到達目標の達成度評価を実施していることで、どのような成果があるのか明確にしてはどうか。
- 地域性というのは大事にしていただきたい。就職率は100%であるが、その中で、県内に就職している学生はどれくらいで、就職後の早期退職の状況はどうか、そのあたりも自己評価していただきたい。
- 授業の工夫として、学生が主体的・能動的に関わるとあるが、具体的に自己点検した結果を示してもらいたい。また、学生が自己点検シートを記入して確認しているとあるが、自己点検シートをどのように活用して、どのような効果があるかについても、具体的に自己点検評価してもらいたい。

【学生支援活動に対する提言事項】

提言 4	学生支援は、身近な担任や指導教員が適切に相談等に対応することが重要であり、対応状況を統計的にまとめ、評価・分析してもらいたい。
提言 5	熊本高専の特長としてどのような学生支援があるか点検・評価し、独自の特色のある支援活動を検討してもらいたい。

「学生支援活動に関する自己点検評価結果」に対する意見抜粋

- 学生支援は、身近な担任や指導教員がどのように対応したのかということが重要である。各担任が相談にきちんと対応し、その状況を統計的にまとめておくことが必要である。
- 熊本高専の特長として、どういう支援があるのかということ点を点検、評価すること。経済面の支援では、学生寮の支援を含めて特長を出してはどうか。
- 自己点検の結果は、総花的に、「なんでも良い。」という評価にするのではなく、自分に厳しく評価するべきではないか。
- クラブ活動についても両キャンパスを統一チーム化することで、総合力を上げて全国大会等での活躍を目指してはどうか。

【研究活動に対する提言事項】

提言 6	研究活動の点検評価にあたっては、どのような分野が伸びているかなど、今後の研究活動の方向性を見据えた分析をしてもらいたい。
提言 7	県内にキャンパスが2か所あることをメリットとして活かして、教育研究の充実・活性化を図ってもらいたい。

「研究活動に関する自己点検評価結果」に対する意見抜粋

- 科研費の獲得が倍増したことは良いことだが、評価をする際は、どのような分野が伸びているか特長を捉え、どの研究が進んでいて、どの研究が不十分なのか、というところを自己点検して評価することが大事である。
- 高専とどういう共同研究ができるのか、判断基準や研究シーズを公開し、共同研究等が実施しやすい環境を整備すること。

- 熊本キャンパスではなく、合志キャンパスというように、合志を入れていただき、熊本高専が合志市にあることをアピールしていただければありがたい。
- キャンパスが県内に2か所あることをデメリットではなくメリットと捉え、2か所の拠点あることを活かし、地域の企業との連携等を県内に広く展開するなど、教育研究の充実・活性化を図っていただきたい。
- 地域の歴史・文化を学ぶのは非常に重要なので、推進していただくとともに、現在の熊本の産業についても学生に学んでもらい、現在の熊本の姿をしっかりと認識することをカリキュラムの中に反映していただきたい。
- いろいろな項目で自己点検評価するのであれば、熊本高専が高度化再編してどうだったのか、その点の自己点検評価というのもあっていいのではないか。高度化再編した成果等を点検評価することで、国からの評価も高くなるのではないか。

機関別認証評価と自己点検書について

2015年 11月

はじめに:

機関別認証評価について
評価基準とその概要
評価基準の内容
評価基準と基本的な観点
自己点検書について

説明者: 副校長(八代キャンパス) 開 豊

機関別認証評価について

(経緯)

- ・平成3年:「**設置基準の大綱化**」
学校ごとの特色ある運営が可能に
- 毎年
- ・**教育研究/組織運営/施設設備等**
に**関しての「自己点検」**が必要
- 7年以内ごと
- ・「**大学評価・学位授与機構**」
による「**評価**」が義務化

本校: 来年度、**統合・再編後 7年**
「**機関別認証評価**」受審年

具体的には、

「**高等専門学校機関別認証評価実施大綱**」&「**高等専門学校評価基準**」に基づき、

- ・今年度:「**自己点検書**」作成(3月まで)
- ・来年度:「**大学評価・学位授与機構**」選定の「**評価委員会**」による評価



大学評価・学位授与機構「評価事業」のページ

評価基準とその概要



「評価基準」は、下記のようになっており、学校業務全般に及んでいます。

- 基準1 高等専門学校の目的
- 基準2 教育組織(実施体制)
- 基準3 教員及び教育支援者等
- 基準4 学生の受入
- 基準5 教育内容及び方法(準学士課程および専攻科課程)
- 基準6 教育の成果
- 基準7 学生支援等
- 基準8 施設・設備
- 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム
- 基準10 財務
- 基準11 管理運営
- 選択的評価事項A 研究活動の状況
- 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービス

評価基準の内容



評価基準は、基準ごとに、具体的な「評価基準の内容」が示されています。

基準1 高等専門学校¹の目的

- 1-1 高等専門学校¹の目的（使命・基本方針・養成する人材像など）が明確に定められており、その内容が、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであること。また、学科及び専攻科ごとの目的が明確に定められていること。
- 1-2 目的が、学校の構成員に周知されているとともに、社会に公表されていること。

基準2 教育組織（実施体制）

- 2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成（学科、専攻科及びその他の組織）が、教育の目的に照らして適切なものであること。
- 2-2 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能していること。

評価基準と基本的な観点



評価基準には、さらに「基本的な観点」が示されており、その項目ごとの点検が求められています。

基準2 教育組織(実施体制): 基本的な観点

- 2-1-① 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。
- 2-1-② 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。
- 2-1-③ 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

- 2-2-① 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。
- 2-2-② 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。
- 2-2-③ 教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

自己点検書の書式と内容



基準2 教育組織(実施体制)

(1) 観点ごとの分析

.....

観点2-2-① 教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

(観点に係る状況)

教育課程を展開するための組織として、準学士課程では両キャンパスに教務委員会(資料2-2-①-1)が、専攻科課程では専攻科委員会(資料2-2-①-2)が設置され、両課程での教務関係活動の全般にわたって、検討から運用までを行っている。なお、教育課程の改訂など、教育活動に関わる重要事項については、当該委員会で審議し、その提案を受けて運営会議(資料2-2-①-3)での議を経て、校長が決定する.....

(分析結果とその根拠理由)

教育課程全般を検討・運営するために準では専攻科委員会を設け、その決定にし.....

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

.....

(改善を要する点)

.....

(3) 基準2の自己評価の概要

.....

本日の検討内容



今年度の運営諮問会議では、作成中の「自己点検書(中間報告)」について、ご意見を伺いたと思います。

基準1	高等専門学校の目的	・	p.4	基準9	教育の質の向上及び改善のためのシステム	(未掲載)
基準2	教育組織(実施体制)	・	p.7	基準10	財務 p.57
基準3	教員及び教育支援者等	・	p.12	基準11	管理運営 p.62
基準4	学生の受入	p.18	基準12	研究活動 p.68
基準5	教育内容及び方法	p.23	基準13	地域連携・地域貢献	・ p.73
基準6	教育の成果	p.39	基準14	国際交流(未掲載)
基準7	学生支援等	p.44			
基準8	施設・設備	p.52			

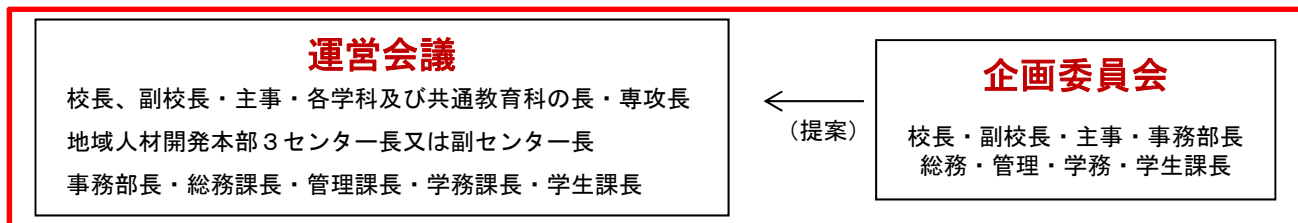
本日は、点検書の内容から **基準 3, 5, 6, 7, 12** を中心に説明します。

本校の課題：2つのキャンパス

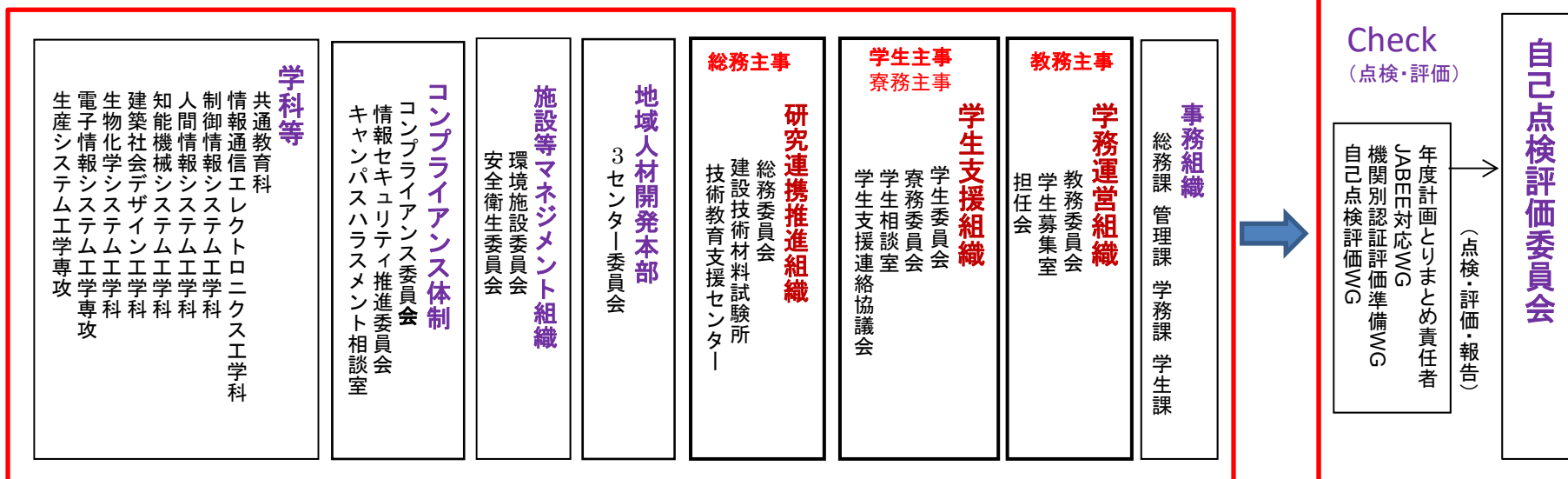
(キャンパスごとの運営組織体制)



Plan (企画・立案)



Do (実施)



※ 1つの学校として「統一した教育体制と学生指導の内容(質)」が問われる？

教育に関する点検と評価

報告内容:

基準3 教員及び教育支援者等

基準5 教育内容及び方法

基準6 教育の成果

報告者:

教務主事(八代キャンパス) 下田貞幸

基準3 教員及び教育支援者等

教員・技術職員・事務職員の配置や教員の資質・活動・評価の状況について



点検結果

教員等の配置や資質・活動・評価の状況について

- 優れた点
 - 教員数: 学生数約1,400名に対して十分な教員の配置
 - 共通教育科専任教員: 41名
 - 専門学科専任教員: 95名 (96%が博士の学位を有する)
 - 教員の資質
 - 専攻科教員: 大学評価・学位授与機構の資格審査に合格
 - 教員採用
 - 研究業績及び面接により専門性等を確認
 - 「模擬授業」を課し学生へのコミュニケーション力を含めた、総合的な教育能力を確認
 - 教育活動評価
 - 授業アンケート等によって学生が授業内容を評価
 - 教育支援者等
 - 社会的な要請を受けて国際交流推進係を新設
 - 技術・教育支援センターによる技術職員の組織的支援

教員の配置

- 共通教育科目に関する教員
 - 専任教員41名
 - 熊本キャンパス17名 八代キャンパス24名(6名はICT系教員)
 - 非常勤講師23名
 - 熊本キャンパス17名 八代キャンパス6名
 - 外国語教育のネイティブ・スピーカーを熊本キャンパス2名, 八代キャンパス1名雇用
- 専門科目を担当する教員
 - 専任教員95名
 - 熊本キャンパス46名 八代キャンパス49名
 - 科目指導及び研究指導に十分な能力を持つ教員を確保・・・教員の学位取得状況 96%が博士
 - 非常勤講師8名
 - 熊本キャンパス5名 八代キャンパス3名
- 専攻科を担当する教員
 - 総合基盤及びコミュニケーションの科目
 - 修士または博士の学位を有し研究業績のある教員
 - 専門科目
 - 関連する研究業績を有する専門学科の教員を配置
 - 科目担当の適性に関する評価
 - 大学評価・学位授与機構の資格審査により専門分野と授業科目の適合性を評価され合格
 - 論文発表, 科学研究費補助金, あるいは外部資金受入状況等の研究業績を確認

教員の活動を活発化するための措置

- 採用計画
 - 企業経験者を積極的に採用
 - 年齢構成が適切になるように年齢制限を設けて公募する場合もあり
 - 選考時の面接で「模擬授業」を課し、研究業績に加えて、学生へのコミュニケーション力、総合的な教育能力を測る
- 現状の構成
 - 年齢構成は右図
 - 学位取得状況 96%が博士
 - 他機関の経験者61名
 - 企業経験者25名
- 教育活動活性化
 - 教員交流の推進
 - 在外研究員1名
 - 内地研究員1名
 - 高専間教員交流1名
(平成27年度)

キャンパス全体

年齢区分	職名				合計
	教授	准教授	講師	助教	
～24					0
25～34		1	4	12	17
35～44		43	4	2	49
45～54	31	10			41
55～63	24	2			26
64～				3	3
合計	55	56	8	17	136

教育活動に対する定期的な評価と対応

- 教員の教育研究活動等に関する全体評価
 - 校長及び人事委員会が「**教員評価**」を実施
- 教育面での評価
 - 教務委員会が学生による「**授業アンケート**」を実施
 - 授業アンケートの結果に対して、教員は「**授業改善レポート**」を提出
 - 著しい改善事項があると認められる場合には、教務委員会が面談や授業参観等により改善指導を行う
 - 評価の高い「**優れた授業**」については、「**授業モニタリング**」と称して、希望教員が参観できる取組を実施
- 教員表彰
 - 教員相互の評価を実施し表彰者を選考する参考資料としている

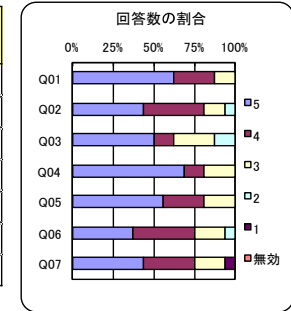


授業モニタリング

学年	学科	科目名	担当教員	開講	必・選	単位数	形態
5年	建築社会デザイン学科			前期	選択	2	講義

番号	質問項目	データ内訳						学生評価平均	教員自己点検
		5	4	3	2	1	無効		
Q01	シラバスの説明	10	4	2	0	0	0	4.5	4
Q02	説明方法	7	6	2	1	0	0	4.2	5
Q03	授業の工夫	8	2	4	2	0	0	4.0	4
Q04	実施状況	11	2	3	0	0	0	4.5	5
Q05	先生の熱意	9	4	3	0	0	0	4.4	5
Q06	授業への取組み	6	6	3	1	0	0	4.1	4
Q07	学ぶ意欲	7	5	3	0	1	0	4.1	4

「授業アンケート」結果 例



平成27年度授業モニタリング実施要領

本年度の授業モニタリングは下記要領で実施します。

- モニタリング実施期間および回数**
 全教員（常勤教員のみ）は、下記期間中に1回以上モニタリングをする。
 実施期間：12月 日（ ）～ 日（ ）の2週間
- 実施方法**（以下のいずれかの方法を選択して実施する）
 ①シラバスにおける関連科目や担当経験のある科目を中心にモニタリングする。可能であれば、関連分野でグループを形成し、そのグループ内で相互モニタリングする。
 ②以下の授業アンケートの結果を元に学生の授業評価が高い教員を抽出し、その教員の授業をモニタリングする。
 過去5年間の授業アンケートの評価平均が各科上位1/3以内の教員
 LY：池田翼、岩尾、宇ノ木、小鉢、上土井、浜田、藤山、道園
 MI：西村、宮本、村山、毛利、山下
 AC：浦野、齊藤、下田、上久保、森山
 BC：大島、瀨邊、最上、元木、弓原

（注意事項）
 ＊教員によっては期間中の授業がなかったり授業変更をされていたりする可能性があるため、できるだけ事前に確認してモニタリングしてください。
 ＊日程が合わない場合は上記以外の教員の授業をモニタリングすることも可とします。
 ＊授業評価が悪いと自己評価されている教員は、複数回モニタリングするなどこの機会を積極的に活用してください。

- モニタリングカードの提出**
 モニタリングの際は、所定のモニタリングシートに「授業形態」、「授業の工夫」および「参考になった点」などを記入し、終了後各科教務委員に提出する。
- モニタリングカードの活用**
 各科目間における情報共有化を図るため、モニタリングカードは教務委員会のホームページに掲載し、全教員が閲覧できるようにする。
- 期待される効果**
 学生による評価が高い授業をモニタリングすることで、工夫された種々の教育方法を参考にすることができ、各教員における教育改善への効果が期待できる。一方、関連分野の授業をモニタリングすることで、各科目間の相互連携を意識した情報交換並びに教員の自己研鑽が期待できる。

「授業モニタリング」実施要領

事務職員、技術職員等の教育支援者等の適切な配置

- 事務部
 - 総務課、管理課、学生課及び学務課で構成
 - 教務及び学生関係担当・・・熊本キャンパス 学生課、八代キャンパス 学務課
 - それぞれ課長1名、課長補佐1名
 - 学生課:教務係3名、学生支援係4名、国際交流推進係3名
 - 学務課:学務係4名、学生係4名
- 技術職員
 - 技術・教育支援センターに所属
 - 熊本キャンパス:技術長1名、技術専門員1名、実験系4名、ネットワーク系2名
 - 八代キャンパス:技術長1名、技術次長1名、技術専門員1名、技術班7名
 - 工学実験、卒業研究、特別研究等における教員の補助
 - ロボットコンテストなどの学生の自主的なものづくりの技術指導
 - 実験及び実習設備の維持管理
- 学生の勉学支援
 - 熊本キャンパス:図書係3名
 - 八代キャンパス:学術情報係4名

結論

- 優れた点
 - 教員数: 学生数約1,400名に対して十分な教員の配置
 - 共通教育科専任教員: 41名
 - 専門学科専任教員: 95名 (96%が博士の学位を有する)
 - 教員の資質
 - 専攻科教員: 大学評価・学位授与機構の資格審査に合格
 - 教員採用
 - 研究業績及び面接により専門性等を確認
 - 「模擬授業」を課し学生へのコミュニケーション力を含めた、総合的な教育能力を確認
 - 教育活動評価
 - 授業アンケート等によって学生が授業内容を評価
 - 教育支援者等
 - 社会的な要請を受けて国際交流推進係を新設
 - 技術・教育支援センターによる技術職員の組織的支援

基準5 教育内容及び方法

教育が適切な内容や方法で実施されているか



点検結果

教育が適切な内容や方法で実施されているか

- 優れた点
 - 制度的な特徴
 - くさび形の専門科目の配置
 - 育成する人材像→学習・教育到達目標→学科の目的→カリキュラム設計
 - シラバス(科目の概要やスケジュール、評価方法をまとめた授業計画書)を作成し、学生に周知するとともにwebで公開
 - 成績評価・単位認定
 - ポートフォリオ(自己活動履歴)や自己点検シートの活用により学生自身が確認できる仕組み
 - 授業の工夫
 - 習熟度別の授業やフィールドワーク、アクティブラーニング(学生が主体的・能動的に関わることを促す授業方法)を取り入れる等の授業の工夫
 - 少人数教育
 - 地域との協働や連携による授業
 - 学生や社会のニーズへの対応
 - 大学等との単位互換制度
 - 企業や大学でのインターンシップのサポート
 - 海外インターンシップやネイティブスピーカーによる英語の授業等グローバル化への対応
 - 地域の要請に応えた支援活動

学生のニーズ、学術の動向、 社会からの要請等への配慮

- 学生のニーズ
 - 授業アンケートや卒業生・修了生アンケートによりニーズ等を把握
 - インターンシップ(就業体験)をサポート
 - 資格検定試験、語学等の検定試験、コンテスト等への参加等の活動をサポート
 - 転科制度により入学後の興味や適性から所属学科が変わることが可能
- 学術の発展の動向
 - 海外の大学等と交流協定
 - 共同研究の推進
- 社会的要請への配慮
 - **グローバル化教育、英語教育**
 - ネイティブ教員による授業、発表活動や多読活動を取り入れた授業
 - TOEICのスコアや英検合格者には単位を認定
 - 海外インターンシップや学外での英語による発表を奨励
 - **地域との連携、フィールドワーク**を取り入れた教育
 - 平成22年度大学教育推進プログラム「社会を教室とする新しいエンジニア教育」
 - 地域が抱える実課題をテーマとして設定し、関係者と協働し解決方法を提案する教育の取組
 - **コミュニケーション能力やチームワーク力を養うための取組**を実施
 - アクティブラーニング(学生が主体的・能動的に関わることを促す授業方法)
 - 寮生会活動



シラバスの作成 内容の整備と活用

- シラバス作成
 - 開講時期, 必修・選択, 単位数, 教員名, 科目概要, 授業方針, 授業項目と達成目標, **ルーブリック**, 評価方法及び総合評価, 学習方法, 教育目標との対応等を記載
 - 本校ウェブサイト公開され, 学内外から閲覧できる
- 活用
 - 学生
 - シラバスの目的と利用法によって使用法を解説
 - 授業概要と授業項目により毎回の授業内容を確認可能
 - ルーブリックにより理解度も把握可能
 - 学習上の注意事項や参考図書の記載により関連知識を自学可能
 - 教員
 - 初回授業でのシラバスの内容説明を義務付け
- 確認体制
 - 授業アンケートにシラバスの説明, シラバスに沿った授業実施についての設問あり
 - シラバス利用状況はおおむね良好

科目名	コンピュータネットワーク(Computer Network)				対象 クラス	機械知能システム 工学科5年
教員名 (所属学科)	村山浩一 (機械知能システム工学科)	開講期間	前期	授業形式	講義	科目区分 専門応用科目
教員室位置	専門科目棟-1F 西側	授業時数	30	単位数	1	選択(学修単位)
教科書	資料配付					
参考書	基礎からわかるTCP/IPネットワークコンピューティングの本 村山 公保 オーム社 Making Things Talk -Arduinoで作る「会話」するモノたちTom Igoe著, 小林 茂 監訳, 水原 文 訳, オライリー・ジャパン					
関連科目	情報基礎, ネットワーク入門, マイコンプログラミング, 機械知能システム工学実験I, 総合実習I					
科目概要	コンピュータネットワークおよびコンピュータによる外部機器の制御について, 通信の基礎的技術を習得することを目指して授業をおこなう。具体的な学習内容としては, インターネットの基礎技術となっているTCP/IPとイーサネットについて復習しながらコンピュータネットワークの仕組みや設定方法を学ぶと共に, コンピュータを使った外部機器の制御方法について, 実習の要素を取り込みながら通信制御の原理とその方法を習得する。					
授業方針	理論的な知識だけでなく, 実習を交えて実際に手を動かしながらコンピュータネットワークを体験し, いろいろな場面で応用が利くような実践的な知識と技術を習得できるように授業を進めていく。					
評価方法及び 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 達成目標は2回の定期試験(80%)と不定期に実施する小テストや課題(20%)で評価する。ただし小テストや課題を実施しなかった場合は定期試験を100%とする。 最終成績が60点以上の者を合格とする。 授業態度が良好で, 且つ学習努力をしているにも関わらず60点に満たない学生には, 再試験を実施して達成度を上限60点として再評価する場合がある。 					
評価項目 (ルーブリック)	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)			
1. コンピュータネットワークの概要を理解し, 基本的な知識を習得している。	コンピュータネットワークについて詳しい説明ができ, 応用的な知識も習得している。	コンピュータネットワークの概要についての説明ができ, 基本的な知識を習得している。	コンピュータネットワークの概要を理解しておらず, 基本的な知識も身に付けていない。			
2. コンピュータネットワークの脅威や問題点について理解している。	コンピュータネットワークの脅威や問題点を認識し, それに対応することができる。	コンピュータネットワークの脅威や問題点を理解し, それを認識することができる。	コンピュータネットワークの脅威や問題点について知らない。			
3. コンピュータネットワークを使うための設定ができる。	アクセス権を考慮したコンピュータネットワークの設定ができ, 実際にコンピュータ間での通信をおこなうことができる。	コンピュータネットワークの設定ができ, 実際にコンピュータ間での通信をおこなうことができる。	コンピュータネットワークを使うための設定ができない。			
4. 指示に沿って, コンピュータを使った外部機器の制御ができる。	独力でコンピュータと外部機器間での双方向制御をおこなうことができる。	独力でコンピュータを使った外部機器の制御ができる。	コンピュータネットワークを使った外部機器の制御ができない。			
			13			



創造性を育む教育方法の工夫 インターンシップの活用

- 創造性を育む教育
 - 本科
 - 「問題解決型」「プロジェクト志向型」教育、PBL教育
 - 「専門応用力の実践」となる卒業研究
 - 専攻科
 - アイデア作成と特許作成方法等を教育
 - 自分の専門分野以外の分野の特徴的な計測技術も含めた実験を体験
 - 社会的な要求を取り入れた具体性のある研究テーマ
 - 共同研究等による学外との連携
 - 外部コンテストへの参加
- インターンシップ
 - 本科4年～専攻科が参加
 - 規定を満たせば単位認定
 - 各キャンパス各学科で発表会を開催
 - 専攻科は修了要件として設定
 - 海外インターンシップも実施



成績評価・単位認定の規定 進級・卒業認定、修了認定

- 成績評価・単位認定規則，進級及び卒業・修了規則
 - 学生便覧に記載
- 各科目の成績評価基準
 - シラバスに明記
 - 初回授業時に担当教員が説明
- 進級及び卒業・修了の認定
 - 進級及び卒業・修了の判定
 - 欠課時数と成績評価資料等を基に細則や申合せに基づき審議
 - 本科は年度ごと、専攻科は半期ごとに判定
 - キャンパス運営会議の審議 → 校長が認定
- 成績の確認
 - 必ず答案を返却し、学生が評価を確認
 - 本科は試験ごとに実施する自己点検シートの記入の際に確認
 - 専攻科はポートフォリオ記入の際に確認

学習自己点検シート
学科（建築社会デザイン工学科）

学年〔 2年 〕 出席番号〔 〕
〔学生のみなさんへ〕

試験の答案が返却され、学生諸君はいろいろと考えるところがあると思います。この機会に、今まで受講してきた科目について、「自己点検」を実施し、レベルアップを目指して、自学自習を改善して取り組んで貰いたいと思います。具体的なアドバイスなどは、各科目担当や担任の先生方のアドバイスを受けてください。

【回答方法】
○今回試験を受けた科目について、次の質問項目について『5段階』で評価して番号を表中に記入して下さい。
○『総合点検』については、総合的に自己点検を実施し、反省点、課題などを記述してください。

【質問内容】 ととても良い ⇄ 普通 ⇄ ととても悪い

① 授業への取り組みは積極的でしたか？ 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1
 ② 科目の勉強方法が纏めていますか？ 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1
 ③ 定期試験への取り組みは充分でしたか？ 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1
 ④ 理解度は自分の目標に達していますか？ 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1
 ⑤ 平日（試験勉強以外）での平均勉強時間は？（1日当たり） 〔 〕 時間/1日

【回答欄】 試験〔 後期中間 〕 点検日付〔 〕

No.	科目名	科目平均	点数	欠課	①	②	③	④
1	国語Ⅱ	74.7	85					
2	世界史	72.7	62					
3	倫理B	74.6	80					
4	数学Ⅱ	68.3	87					
5	物理Ⅰ	67.1	83					
6	保健・体育Ⅱ							
7	英語Ⅱ	67.5	95					
8	英会話Ⅱ	73.4	81					
9	測量学及び測量実習Ⅱ	65.3	74					
10	建設材料	63.4	81					
11	設計製図Ⅰ	60.1	79					
12	構造力学Ⅰ(2年)	69.0	84					
13	ネットワーク入門	80.5	87					
14	基礎情報工学	65.4	69					
15	マイコンプログラミング入門							
16	基礎電気工学	72.9	84					
17	特別活動							

〔総合点検〕 個人平均点〔 80.8 点 〕 クラス順位〔 8 位 〕

○次回の試験に向けての学習目標を掲げてください。

15

熊本高等専門学校 教務委員会

結論

教育が適切な内容や方法で実施されているか

- 優れた点
 - 制度的な特徴
 - くさび形の専門科目の配置
 - 育成する人材像→学習・教育到達目標→学科の目的→カリキュラム設計
 - シラバス(科目の概要やスケジュール、評価方法をまとめた授業計画書)を作成し、学生に周知するとともにwebで公開
 - 成績評価・単位認定
 - ポートフォリオ(自己活動履歴)や自己点検シートの活用により学生自身が確認できる仕組み
 - 授業の工夫
 - 習熟度別の授業やフィールドワーク、アクティブラーニング(学生が主体的・能動的に関わることを促す授業方法)を取り入れる等の授業の工夫
 - 少人数教育
 - 地域との協働や連携による授業
 - 学生や社会のニーズへの対応
 - 大学等との単位互換制度
 - 企業や大学でのインターンシップのサポート
 - 海外インターンシップやネイティブスピーカーによる英語の授業等グローバル化への対応
 - 地域の要請に応えた支援活動

基準6 教育の成果

身につけるべき資質等の達成状況について



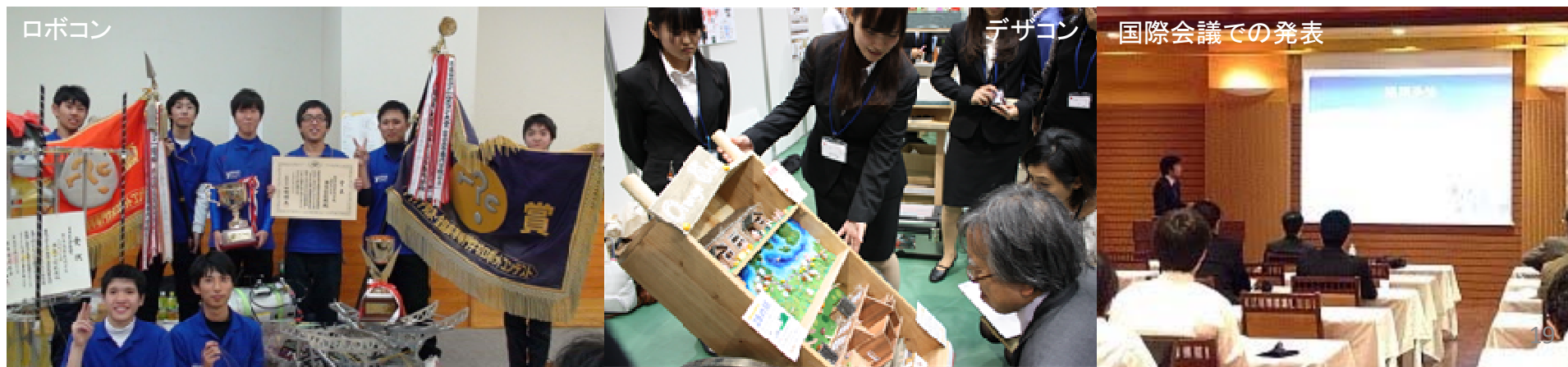
点検結果

身につけるべき資質等の達成状況について

- 優れた点
 - 例年の本科の進級率は95%前後
 - 資格取得や学会・コンテスト等への参加を積極的に推進
 - 上記に対する平成26年度卒業生・修了生の表彰者数 専攻科36名、本科69名
 - 学生の国際会議での発表は毎年約20名程度
 - ロボコン全国大会優勝&ロボコン大賞受賞
 - 全国高専デザコン最優秀賞受賞
 - 就職・進学
 - 本科、専攻科ともに就職率はほぼ100%
 - 国立大学及び大学院修士課程への進学も多い
 - 八代キャンパスは卒業時・修了時に学習・教育到達目標の達成度を学生自身が自己評価する
- 改善を要する点
 - 熊本キャンパスでは、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力について、学生自身による達成度の調査及び評価を実施していない →平成27年度から実施予定

教育の成果や効果

- 進級
 - 本科進級率は95%前後
 - 専攻科はほぼ100%の学生が2年間で修了
- 資格取得や学会・コンテスト等への参加
 - 上記に対する平成26年度卒業生・修了生の表彰者数 専攻科36名、本科69名
 - ロボコン、デザコン、プロコン等の全国大会で活躍
- 学生の国際会議での発表
 - 毎年約20名程度が発表・・・ 国際会議で表彰された学生も



進路の状況

- ほぼ100%が進路決定
 - 約60%の学生が就職
 - 約20%が専攻科進学
 - 約15%が国公立大学3年次編入

学 科	卒業生	就職	進学			その他
			大学	専攻科	その他	
情報通信エレクトロニクス工学科	38	15	10	11	0	2
制御情報システム工学科	30	21	6	3	0	0
人間情報システム工学科	32	21	3	8	0	0
機械知能システム工学科	39	26	3	10	0	0
建築社会デザイン工学科	33	23	4	6	0	0
生物化学システム工学科	31	23	4	4	0	0
全 体	203	129	30	42	0	2
就職希望者の割合:63.55% 内定率:100% 進学希望者の割合:36.45% 内定率:97.30%						



進学先(大学は3年生へ編入学)	人 数	進学先(大学院へ入学)	人 数
熊本高専専攻科	44	九州大学大学院	13
熊本大学	8	東京大学院大学	2
鹿児島大学	5	東京工業大学大学院	2
豊橋技術科学大学	3	熊本大学大学院	2
長岡技術科学大学	2	九州工業大学大学院	2
九州工業大学	2	奈良先端科学技術大学院大学	1
その他の大学 (九州大学、早稲田大学 他 国立大学)	10	豊橋技術科学大学大学院大学	1
合 計	74	合 計	23

平成26年度卒業生の進路状況

学生の学習達成度評価等による教育の成果や効果

- 学生自身が学習を自己管理する仕組み
 - － 定期試験ごとに実施している「**自己点検シート**」
 - 八代キャンパスの本科全学年において実施
 - － 学習・教育到達目標の達成度評価
 - 本科：**学習等の活動記録及び達成度記録簿**
 - － 現在までの修得単位数や取得した資格を確認
 - － 到達目標に対する現在の状況を自己評価
 - 専攻科：**ポートフォリオ**
 - － 本科4年以降に修得した科目を記入し確認
 - － 達成度の状況を自己評価

○ 「本校が育成する人材像」に対する達成度の自己点検

「本校が育成する人材像」に対する達成度について、5点満点で自己点検をして下さい。
マージン形式での回答となります。該当する番号を順番に塗りつぶしてください。

本校が育成する人材像	サブ目標	達成できた自己点検 [5-4-3-2-1]		
		4年進級時の評価 (4年制記入)	5年進級時の評価 (5年制記入)	卒業時の評価
(1) 日本語及び英語のコミュニケーション能力を有する技術者	1-1: 日本語による適切な文章表現及び口頭の意味伝達ができる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	1-2: 日常的に使用される英語で書かれた文書の概要・要旨がつかめる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	1-3: 自分の考えを簡潔な英語で表現できる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
(2) ICTに関する基本的技術の習得及び工学への応用技術を身につけた技術者	2-1: ICT技術に関する基本的技術を身につける	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	2-2: 種々の情報を分析する技術を身につける	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
(3) 各分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者	3-1: 工学の基礎となる数学・自然科学の基礎知識を身につける	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	3-2: 多様な専門分野の関連性を理解することができる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	3-3: 基礎知識を応用して工学的問題を理解し、説明できる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	3-4: 基礎的な実験技術を身につける	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
(4) 知徳体の調和した人間性及び社会・国際性を身につけた技術者	4-1: 広い視野で物事を考えることができる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	4-2: 日本と世界との関わりに関心を持つことができる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	4-3: 社会参加のための、人間基礎力を身につける	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	4-4: グループでの活動に参加し、その中で協働して役割を果たせる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
(5) 広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身につけた技術者	5-1: 技術者が持つべき倫理観の必要性を認識できる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	5-2: 社会における倫理的な問題を認識することができる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
(6) 知的探求心を持ち、主体的・創造的に問題に取り組むことができる技術者	6-1: 好奇心と探究心を持って、得意とする専門分野の課題に取り組むことができる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	6-2: 得意とする専門分野の知識・技術を身に付け、社会との関連を理解できる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①
	6-3: 主体的に継続的に学習できる	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①	⑤ ④ ③ ② ①

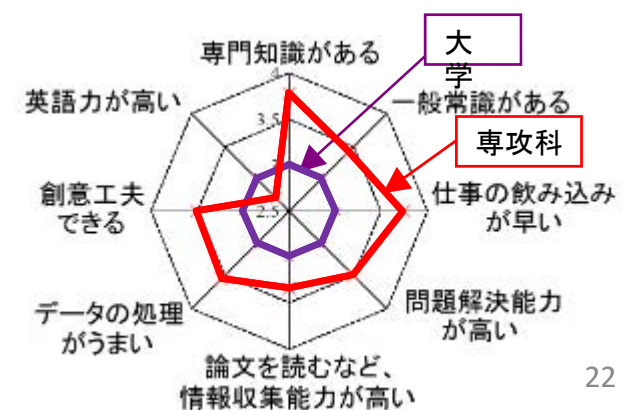
本点検シートについて

- 点検したシートは、各学科の事務室に保管していますので、教員に申し出て閲覧できます。
- 本シートは、学生諸君の本校での学習支援、履修指導、カリキュラム検討、外部審査時の参考資料として用いますが、それ以外の用途では使用しません（個人の秘密は守ります）。

- 在学時の教育の効果や学習・教育到達目標に対する達成度の評価
 - － 卒業生及び修了生を対象とした**卒業生・修了生アンケート**により把握

在学時に身に付けた学力や資質・能力や卒業後の成果等に関する意見聴取

- 就職後数年経過したOBを対象としたアンケート
- 就職企業を対象とした企業アンケート
 - 学習・教育到達目標に関連して、技術者として必要な能力・資質について必要とされるレベルを調査
 - 平成24年度に実施したアンケート
 - 本科卒業生については「協調性」や「継続力」、「コンピュータを使う力」等の評価が高い
 - 英語力に関する評価が低い
 - 専攻科修了生については、本科と同様英語について今後改善が求められる
 - 専門分野の知識・技術を使いこなす力について高い評価



結論

身につけるべき資質等の達成状況について

- 優れた点
 - 例年の本科の進級率は95%前後
 - 資格取得や学会・コンテスト等への参加を積極的に推進
 - 上記に対する平成26年度卒業生・修了生の表彰者数 専攻科36名、本科69名
 - 学生の国際会議での発表は毎年約20名程度
 - ロボコン全国大会優勝&ロボコン大賞受賞
 - 全国高専デザコン最優秀賞受賞
 - 就職・進学
 - 本科、専攻科ともに就職率はほぼ100%
 - 国立大学及び大学院修士課程への進学も多い
 - 八代キャンパスは卒業時・修了時に学習・教育到達目標の達成度を学生自身が自己評価する
- 改善を要する点
 - 熊本キャンパスでは、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力について、学生自身による達成度の調査及び評価を実施していない →平成27年度から実施予定

学生支援について(自己点検書「基準7」)

報告内容:

- 学生生活に対する支援体制(観点7-2-①)
- 課外活動に対する支援体制(観点7-1-⑤)
- 経済面に対する支援体制(観点7-2-①)
- 学生寮に対する支援体制(観点7-2-③)

報告者:

学生主事(八代キャンパス) 古嶋 薫

平成27年度運営諮問会議 2015.11.18

1



評価の観点 基準7-1-①～⑤

- ① 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。
- ② 自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。
- ③ 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。
- ④ 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。
- ⑤ 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

評価の観点 基準7-2-①～④

- ① 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。
- ② 特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。
- ③ 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。
- ④ 就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

学生支援について(自己点検書「基準7」)

報告内容:

- 学生生活に対する支援体制(観点7-2-①)
- 課外活動に対する支援体制(観点7-1-⑤)
- 経済面に対する支援体制(観点7-2-①)
- 学生寮に対する支援体制(観点7-2-③)

自己点検結果

(1) 学生生活に対する支援体制

☆クラス担任制度が良く機能しており、学生相談室や保健室も学生の健康管理や生活上の問題に応じる態勢を整えている。

(2) 課外活動に対する支援体制

☆クラブ活動は顧問の指導のもと活発に行われている。また、課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制のもとに機能している。

(3) 経済面に対する支援体制

☆経済支援として、奨学金制度、入学料や授業料の免除及び猶予制度を整備しており、経済面の指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

(4) 学生寮に対する支援体制

☆学生寮が整備され、日課表に従い規則正しい生活をしている。寮務委員会や当直教員・学生寮役員の指導のもと、生活及び勉学の場として十分有効に機能している。

学生生活に対する支援体制 (観点7-1-①)

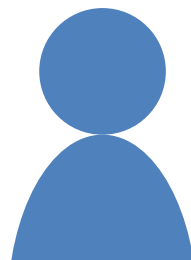
【熊本高専】

校長

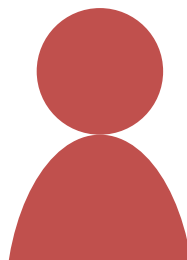
学科教員

共通教育科教員

事務職員



顧問



担任



学生相談室



保健室

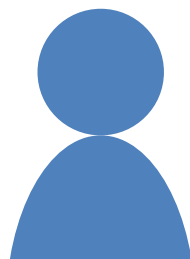
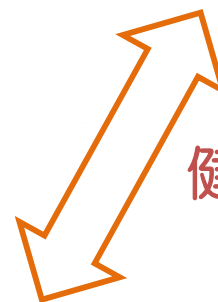


カウンセラー

相談・指導



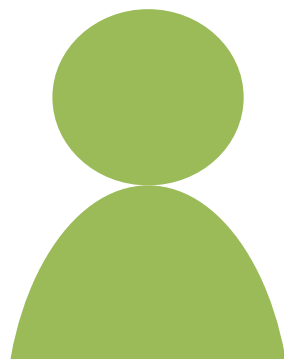
健康・悩み相談



教務委員会



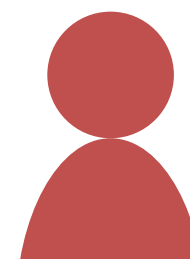
学習全般



学 生

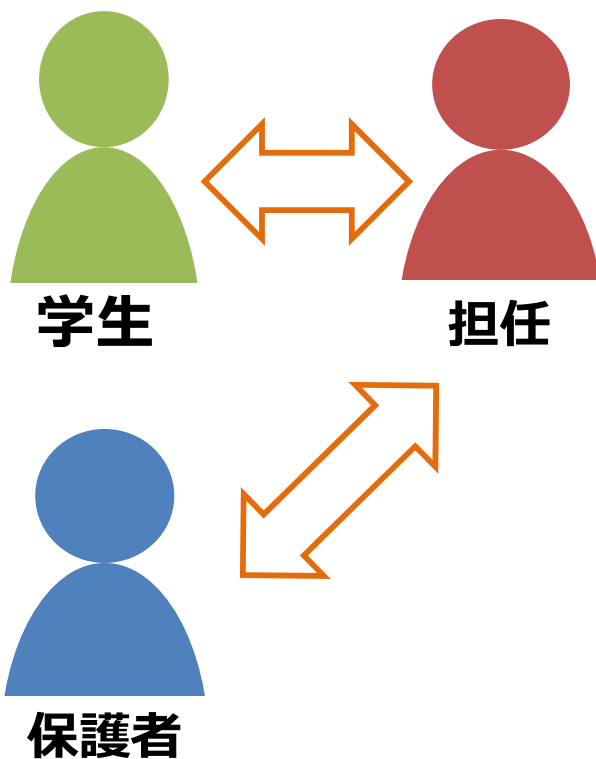


生活全般



学生会
寮務委員会





担任業務

- ・ 学校生活上の指導
- ・ 学業指導、支援
- ・ 学校組織との連携
- ・ 保護者との連携(保護者懇談会、個別面談)

学年に応じた課題と対応

1～3年

- ・ 年間ホームルームの計画、実施
- ・ エンジニア総合学習
- ・ 学内、学外研修

4～5年、専攻科

- ・ 進路セミナー
- ・ インターンシップ
- ・ 工場見学研修旅行
- ・ 就職、進学指導

学生生活に対する支援体制

学生相談室 保健室

保健師の2名体制



学生相談

外部専門医(精神科医, 心理士)
月4~5回程度
(1回当たり4~5時間程度)

学生相談室平成27年度年間スケジュール

- 5月18、29日：自殺予防アンケート実施
- 6月8日：教職員向け特別講演（セクハラ・パワハラ）
- 6月試験後：自殺予防アンケート結果を担任へ連絡、学生面談実施
- 6月下旬：生活実態調査アンケート実施
- 9月3、4日：心の問題と成長支援ワークショップ（大阪）
- 9月16、17日：九州沖縄地区学生相談室会議（佐世保高専）
- 10月中旬：心理テストΣ実施（2年生）
- 11月中旬：全国高専学生相談室会議（東京）
いじめの実態調査
- 1月中旬：メンタルヘルス特別講演（3年生）

相談員の紹介

相談員名		相談日時・連絡先
脇山 秀樹	平成病院医師	月1~2回火曜日 14時~18時
尾井 美樹	心理士	月3回 11時~15時
時松 雅史	共通教育科	ダイヤル 0965-53-1243 tokimatu@kumamoto-nct.ac.jp
村田美友紀	共通教育科	ダイヤル 0965-53-1301 m-murata@kumamoto-nct.ac.jp
山下 徹	機械知能システム工学科	ダイヤル 0965-53-1278 yamashita@kumamoto-nct.ac.jp
山下 智子	看護師	ダイヤル 0965-53-1227 tom.yama@kumamoto-nct.ac.jp
宮崎 聡子	学生相談支援員	ダイヤル 0965-53-1227 s-miyazaki@kumamoto-nct.ac.jp

学生相談室は
みなさんの学生生活を
サポートするところです。

人生には多くの試練と悩みがつきものです。それらに向き合い、自分を見つめ、新しい自分を発見するのも、学生ならではの重要な課題です。

... こんなことで悩んでいませんか ...



人間関係
について

友達のこと
寮生活のこと
部活動のこと

学業
について

意欲がわからない
授業についていけない
休学・退学について

こころ
について

食事が食べられない・食べ過ぎる
人の目が気になる
教室に入りづらい

恋愛
について

彼のこと
彼女のこと

健康
について

体の調子が悪い
夜眠れない

進路
について

将来の目標や進路について迷っている
就活・就職活動について
どんな仕事に向いているのかわからない

性格
について

自分のことについて、もっと考えたい
ちがう自分になりたい

その他
について

経済的な問題
家庭の問題
なんとなく話がしたい
いろいろな勧誘

学生相談室の利用方法

- 直接保健室で受付、または電話・メールでの相談や予約申し込みもできます。
- 希望者は、医師や心理士による相談も受けられますのでご相談ください。
- *原則として医師や心理士のカウンセリングは予約制です。

相談内容については、固く秘密を守ります。

学校外の相談機関として『KOSEN 健康相談室』があります。電話による体や心の健康相談（24時間・年中無休）、電話、WEB及び面接によるカウンセリングを受けることができます。学生ご本人と保護者の方が対象です。プライバシーは厳守されるシステムになっておりますので安心してご利用ください。通話料は無料です。

電話相談 0120-50・24・12 携帯OK

WEB相談 <https://www.dial-soudan.jp/eap/kosen/>

【ユーザーID】 kosen 【パスワード】 kenkosoudan 【契約ID】 M100510

学生相談日

脇山秀樹 先生（医 師）

6月 2日（火） 15時から

6月16日（火） 15時から

亀井美樹 先生（心理士）

6月12日（金） 11時から

6月18日（木） 11時から

6月24日（水） 11時から

利用方法：保健室で予約を受付ています。気軽に
相談に来て下さい。

場所：学生相談室（保健室の前）

平成26年度 学生相談室集計
 亀井先生・脇山先生・相談室員・寮(宮崎さん)の分

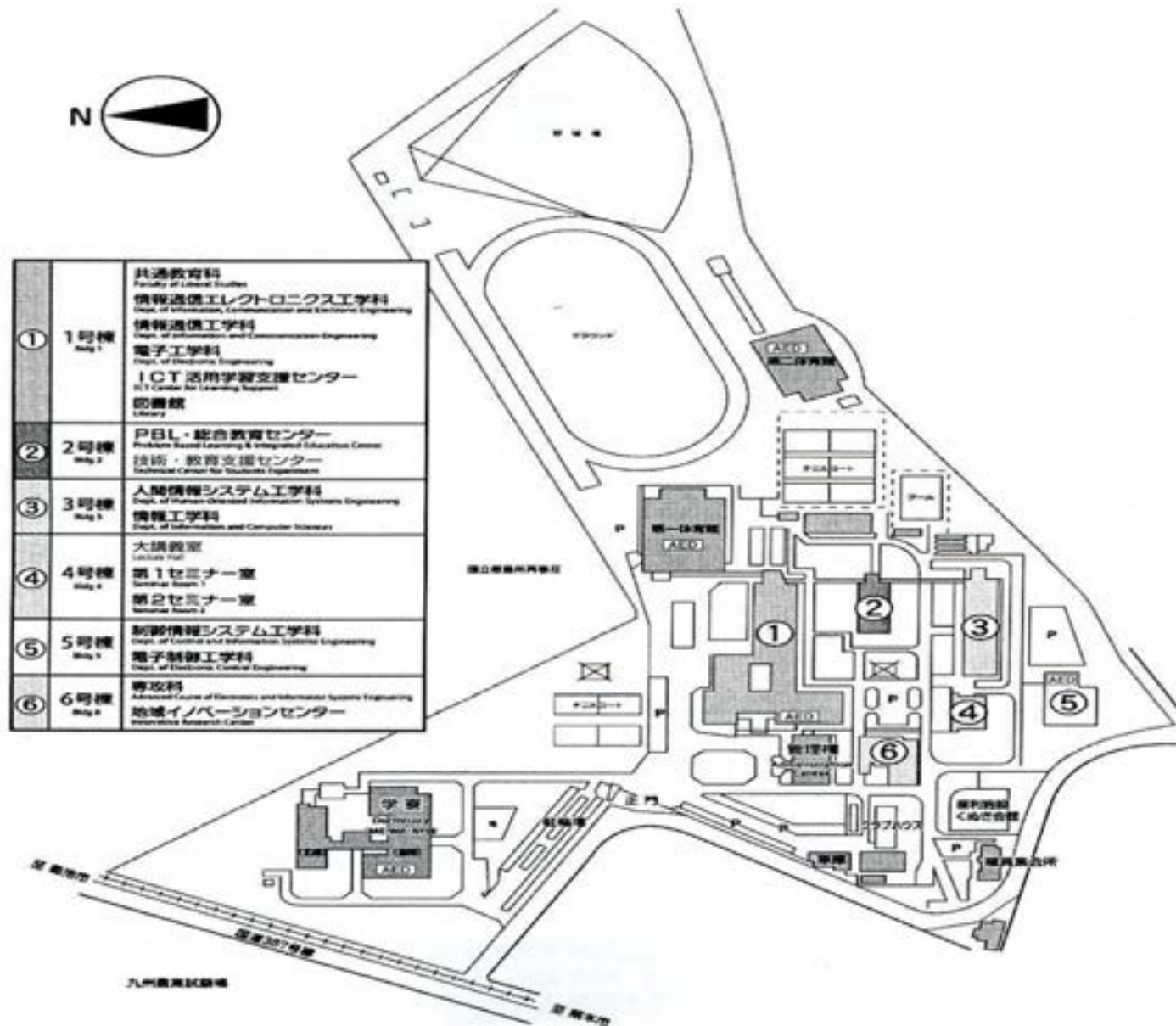
相談内容	学年別相談件数内訳(のべ人数)							合計
	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	その他	
勉学		22	2	3	2	1		30
進路	6	5	2		4	5		22
部活動	2	4		2	1	3		12
交友	2	11		3				16
異性関係		1		2				3
性格	1	2			2			5
健康	16	43	26	26	3	7	13	134
寮生活	3	9	1					13
家庭		1	1				5	7
宗教思想								0
学費経済								0
その他	3	77	1	6	5	14	12	118
合計	33	175	33	42	17	30	30	360

課外活動に対する支援体制 (観点7-1-⑤)

八代キャンパスの敷地



熊本キャンパス建物配置図



クラブ活動

(両キャンパスにそれぞれ 30以上のクラブや同好会)

熊本キャンパス

八代キャンパス

陸上部, ソフトテニス部, 剣道部, 水泳部, ラグビー部, 野球部, バスケットボール部, 卓球部, サッカー部, 柔道部, バレーボール部, 弓道部, ハンドボール部, テニス部, バドミントン部, 空手道部

軟式野球同好会

少林寺拳法部, フットサル部

吹奏楽部, 茶道部, 写真部, ロボコン部

英語同好会, 軽音楽部, ラジコン同好会, 電子計算機部

英語研究部, 音楽研究部, ラジコン研究部, 情報システム研究部

天文部, イラスト研究部, 放送部, 思考ゲーム部, ピアノ同好会, 書道同好会, ミステリー同好会, あかぺら同好会, マーケティング同好会, 手芸同好会, など

料理研究部, 園芸部, 詞創, 科学部, the plastic arts, Traffic Design研究会, CAPP A団
など





高専体育大会



ロボットコンテスト



吹奏楽コンクール九州大会



高校野球, 高校総体

■ ロボットコンテスト九州・沖縄地区大会3連覇

2012 ベスト・ペット



2012
地区大会 優勝, 全国大会 準優勝
(八代キャンパス MOOSTAR)

2014 出前迅速



2014 地区大会 優勝, 全国大会 11/23(日)
(八代キャンパス 本気(マジ)の宅配便)

2013 Shall We Jump?



2013
地区大会 優勝
(熊本キャンパス Come on jumper)

デザインコンペティション2014 in やつしろ



平成26年度全国高専デザインコンペティション
空間デザイン部門で**最優秀賞(全国1位)**
環境デザイン部門で2作品が**優秀賞(全国2位)**



国際感覚や英語力を養う海外研修

海外語学研修、海外研修旅行

マーレイ大学(アメリカ)、ポリテクニク(シンガポール)、
クイーンズランド工科大学(オーストラリア)、etc.

海外へのインターンシップ

平田機工(台湾)、ローム(タイ)、マブチモーター(ベトナム)、
TOTO(ベトナム)、マエダ・ソリューションズ(マレーシア)、etc.



アメリカ・マーレイ大学にて



平田機工(台湾)にて



経済面に対する支援体制 (観点7-2-①)

トータルの学費が安い

区分	高専(5年間)	専攻科(2年間)	公立高校(3年間) + 国立大学(4年間)
入学金	84,600円	84,600円	5,650円(公立高校) + 282,000円(国立大学)
授業料(年間)	234,600円 (1~3年) 234,600円 (4,5年)	234,600円	118,800円 (公立高校) 535,800円 (国立大学)
卒業までの学費	約126万円	約55万円	<u>約279万円</u>
	約181万円 (高専+専攻科)		

約100万円安い

授業料免除制度や奨学金制度が充実 (H26年度)

日本学生支援機構	141名
熊本県育英資金、ほか	70名
合 計	211名
奨学生の割合	17%
授業料免除	154名
授業料免除者の割合	12%
在学者数	1270名

学生寮に対する支援体制 (観点7-2-③)

冷暖房が完備した快適な寮での共同生活



明和寮

H27年度寮生数：163(32)名

寮生の割合

熊本C：23%

八代C：48%



八龍寮・夕葉寮

H27年度寮生数：328(83)名

(平成27年5月1日現在)

学生寮の特徴

- ☆ **複数名の教員**が寮監として毎日宿直するので、安心.
- ☆ **自習時間**を設けてあり、勉学に励む環境が整っている.
- ☆ 共同生活を通じて、**コミュニケーション能力・協調性**が高まる.
- ☆ **規則正しい生活**が身に付く.
- ☆ 寮費が**安い**. (1ヶ月3食付で36,000円程度、アパート暮らしなら約10万円)



寮費(月額)

項目	熊本キャンパス	八代キャンパス
寄宿料	800円(個室), 700円(2人部屋)	
食費	約30,000円(1日3食, 土日祝祭日含む)	
運営費	2,800円	5,400円(固定)
寮生会費	500円	電気料・クーラーリース分・ガス代・消耗品・寮生会費を含む
電気料	使用料を個別徴収	



居室は冷暖房完備



栄養士がいるので栄養バランスも安心



自己点検結果

(1) 学生生活に対する支援体制

☆クラス担任制度が良く機能しており、学生相談室や保健室も学生の健康管理や生活上の問題に応じる態勢を整えている。

(2) 課外活動に対する支援体制

☆クラブ活動は顧問の指導のもと活発に行われている。また、課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制のもとに機能している。

(3) 経済面に対する支援体制

☆経済支援として、奨学金制度、入学料や授業料の免除及び猶予制度を整備しており、経済面の指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

(4) 学生寮に対する支援体制

☆学生寮が整備され、日課表に従い規則正しい生活をしている。寮務委員会や当直教員・学生寮役員の指導のもと、生活及び勉学の場として十分有効に機能している。

研究活動の状況 に関する点検と評価

報告内容:

基準12 研究活動の状況

報告者:

総務主事(八代キャンパス) 小田明範

基準12: 研究活動の状況

観点①: **本校の研究の目的**に照らして、**研究体制及び支援体制が適切に整備**され、**機能**しているか。

観点②: 研究の目的に沿った**活動の成果**が上げられているか。

観点③: **研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備**され、**機能**しているか。

本校の研究の目的

[1] 教員の専門分野における**研究活動の推進**とともに、その**成果の公表**につとめる。

[2] 地域イノベーションセンター等を活用し、地域産業界や地方公共団体との**共同研究**、**受託研究**、**技術相談等の受入れ**を推進するとともに、**科学研究費補助金等の外部資金獲得**に取り組む。

[3] 研究成果の**知的財産化**を推進する。

自己点検結果

観点①(研究・支援体制)

- ・研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能している。

観点②(活動の成果)

- ・学術論文等の数は平均値としては、目標値を超えている。ただし、個人毎にみると未達成の者も多い。
- ・科研費の獲得について、一時期の低迷期を脱して増加傾向にある。ただし、国からの運営費交付金が減少する中で共同研究等の外部資金同様に、より一層の強化が望まれる。

観点③(問題点を把握し、改善を図っていくための体制)

- ・研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能している。

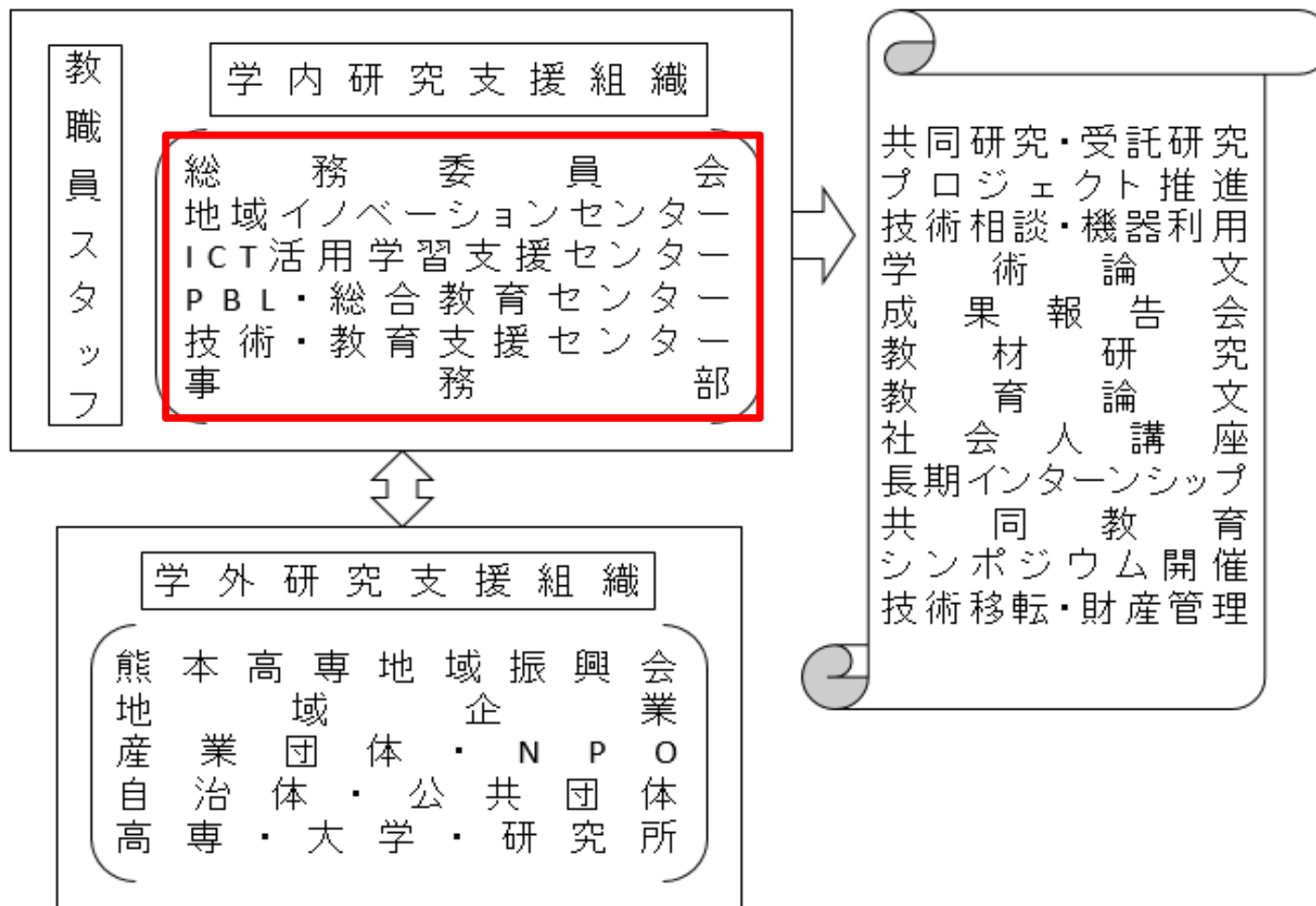
評価の観点①

観点①： 本校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

観点②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

観点③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

研究実施体制および支援体制



研究活動の推進や支援について

○ 総務委員会

研究活動の推進・強化に関する取り組み, 研究業績等の成果の公開

○ 地域イノベーションセンター

研究活動の活性化, 共同研究等の受入れの推進

○ ICT活用学習支援センター(図書館含む)

ICT基盤の整備, 学術情報の提供, 蔵書・文献検索サービス

○ 技術・教育支援センター

教員の研究活動の支援

○ 事務部(研究推進係, 企画係等)

学術助成, 内地研究員, 科学研究費等に関する支援

・学外での研修: 職務専念義務免除願

・内地研究員制度, 在外研究員制度, 高専・両技術科学大学間教員交流制度

・教育研究経費: 研究活動の基盤となる経費

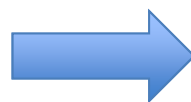
・校長裁量経費: 教員等からの申請に基づき, 校長の裁量により採択

研究成果の公表

「研究紀要」の発行

抄録1 (著書, 学術論文, 国際会議) (様式1)

区分	著書, 学術論文等の名称	著者, 共著者の氏名	発行又は発表の年月	発行所, 発表誌, 国際学会又は発表学会等の名称	概要	氏名(所属)
(著書)						
1 著書	工学基礎と高度TECCT「線形代数」	共著	2013年10月	数理工学社 (サイエンス社)	高専及び大学工学系向けの線形代数テキスト	監修: 河東孝之 (熊本) 共編者: 佐々木五郎 (広島) 他 執筆者: 五十日鏡 岡田久幸 他
2 著書	工学基礎と高度TECCT「線形代数」 別巻集	共著	2013年10月	数理工学社 (サイエンス社)	高専及び大学工学系向けの線形代数に関する別巻集	監修: 河東孝之 (熊本) 共編者: 佐々木五郎 (広島) 他 執筆者: 五十日鏡 岡田久幸 他
3 著書	『アメリカ文学55のキーワード』	共著	2013年11月	ミネルヴァ書房	『アジア系アメリカ人』と『ハイブリッド文化』を紐帯	滝元実子 等
4 著書	熊本県の近代化遺産 (下)	共著	2014年1月	旺文社	熊本県及び大分、福岡、大分、大分県に属する明治～昭和前期の近代化遺産を調査し、成果をまとめたもの。日本高専教師八代協会、日本製鉄八代工場、明専寺本堂を本山寺、熊川橋を岩戸町、日本セメント八代工場、松尾社宅を熊田郷子が担当した。	熊本産業遺産研究会・熊本まちなみトラスト編 本山寺 本山寺 松尾社 熊田郷子
5 著書	防災工学	共著	2014年3月	コロナ社	社会資本の整備や維持の面で重要となる防災に関する工学的な知識を幅広く学ぶことを目的として、地震災害、河川・土石流災害と海岸災害、地盤災害、火山災害などの解説に加え、その原因や対策等に関して記述している。	岡山県産 近藤誠 (鹿児島高専) 隈 和寿 (明石高専) 内村優治 (岐阜高専) 塩野計司 (長岡高専)
(学術論文)						
1 学術論文 (査読あり)	Analysis of elliptical perforated tube muffler	共著	2013年4月	International Journal of Earth Sciences and Engineering, Vol. 08 No.02 (2013), pp.110-114	エンジンからの騒音伝達を低減化し、更に騒音レベルの増大の抑制となる欠孔の構造を提案するために有効であるため、マフラー内には多孔ノズルが広く用いられている。本論文では、幾何学形状マフラーの音響特性を高次元音圧成分の表層を考慮しつつ理論的および実験的に解析している。なお、簡単なため欠孔の影響は無視している。	西村社学 西村寿信
2 学術論文 (査読あり)	Asymptotic Properties and Stability Criteria of Zeros of Sampled-Dum Models for Decoupled MIMO Systems	共著	2013年5月	IEEE Transactions on Automatic Control, Volume: 58, Issue: 5, pp. 2983-2990	連続時間定常線形システムに対してゼロホールドを用いて離散時間システムを求めると、連続時間系にはない零点(内部安定性)が新たに現れる。この新たに生じる零点の安定性には非線形性が関係する。そこで、零点のサンプリング間隔に関する近似式を導出し、漸近安定性を明らかにする。	石根光康 (熊本大) 西澤俊 橋本清明 (熊本大)
3 学術論文 (査読あり)	安倍をめぐって政治思想—ヴェネツィア時代後期におけるゴモラシー— 政治・文化・政治的決定—	共著	2013年3月	政治思想学会編『政治思想におけるヴェネツィア時代後期におけるゴモラシー—政治・文化・政治的決定—』研究 第13号 104-114	ヴェネツィア時代には、政治支配者層が、民衆の非合理的意見を否めた多種な見解をいかにまとめた政治的決定に到達するか、という「知識人」と「民衆」問題が課題となった。本稿では、これに対するヴェネツィアの回答を、カピットゥムの思想と対比しつつ、安倍思想に焦点を当てて考察した。ヴェネツィアによれば、政府とは、非合理的性を内包した多種な政治主体間の決定形成の場であるがゆえに、民衆の合理的な対抗空間は成立しない。安倍を巡ってのみ政治的決定が可能となる。	滝田隆彦



業績公開用のWebへ移行予定(平成27年度より)

評価の観点②

観点①： 本校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

観点②： 研究の目的に沿った**活動の成果**が上げられているか。

観点③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

研究活動の目標値

- 論文数5年に1編以上
- 口頭発表毎年1件以上

平成26年度まで(暫定的)



- 論文数5年に**2**編以上
- 口頭発表毎年1件以上

平成27年度より適用予定(H27.11月)

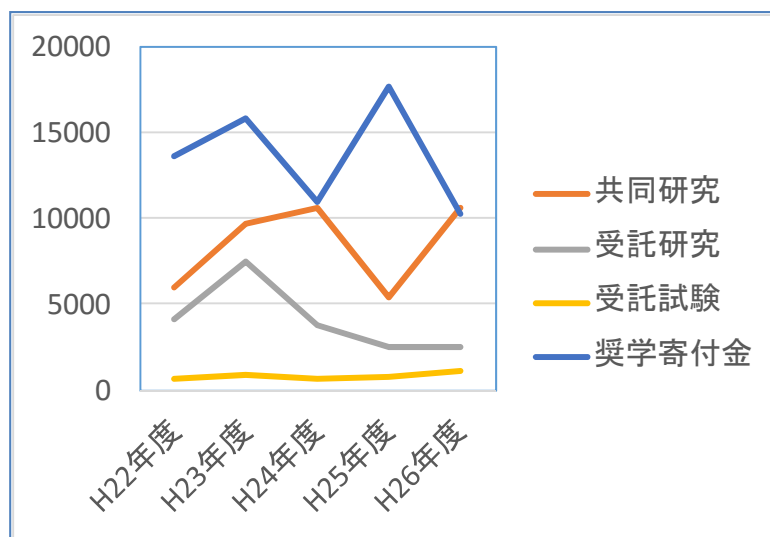
平成22～26年度の発表論文，学会講演発表等の件数

学科	人数	著書	学術論文	研究紀要	国際会議 発表	学会講演 論文集	解説・ 総説	特許	その他
共通教育科(熊本キャンパス)	16	7	29	5	8	48	1	0	8
共通教育科(八代キャンパス)	23	12	27	26	23	69	0	0	18
情報通信エレクトロニクス工学科	16	0	65	29	143	434	4	10	13
人間情報システム工学科	15	3	40	2	51	179	2	5	7
制御情報システム工学科	14	1	52	23	79	139	0	24	10
機械知能システム工学科	17	1	39	15	55	81	1	4	21
建築社会デザイン工学科	15	9	38	32	21	174	23	10	52
生物化学システム工学科	16	1	85	3	43	159	5	105	6
総計	132	34	375	135	423	1283	36	158	135
平均		0.26	2.84	1.02	3.20	9.72	0.27	1.20	1.02

5年間の1名あたりの平均値として、学術論文は約2.8件、国際会議発表，国内会議での発表（学会講演論文集）の合計が約12.9件、個人毎にみると未達成者も多い

平成22～26年度の共同研究等による外部資金の受け入れ

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
共同研究	5945	9665	10592	5392	10592
受託研究	4107	7422	3749	2493	2521
受託試験	694	905	587	771	1065
奨学寄付金	13650	15780	10948	17639	10249



※ 単位:千円

毎年度, 2500万円程度

「熊本高専概要」より作成

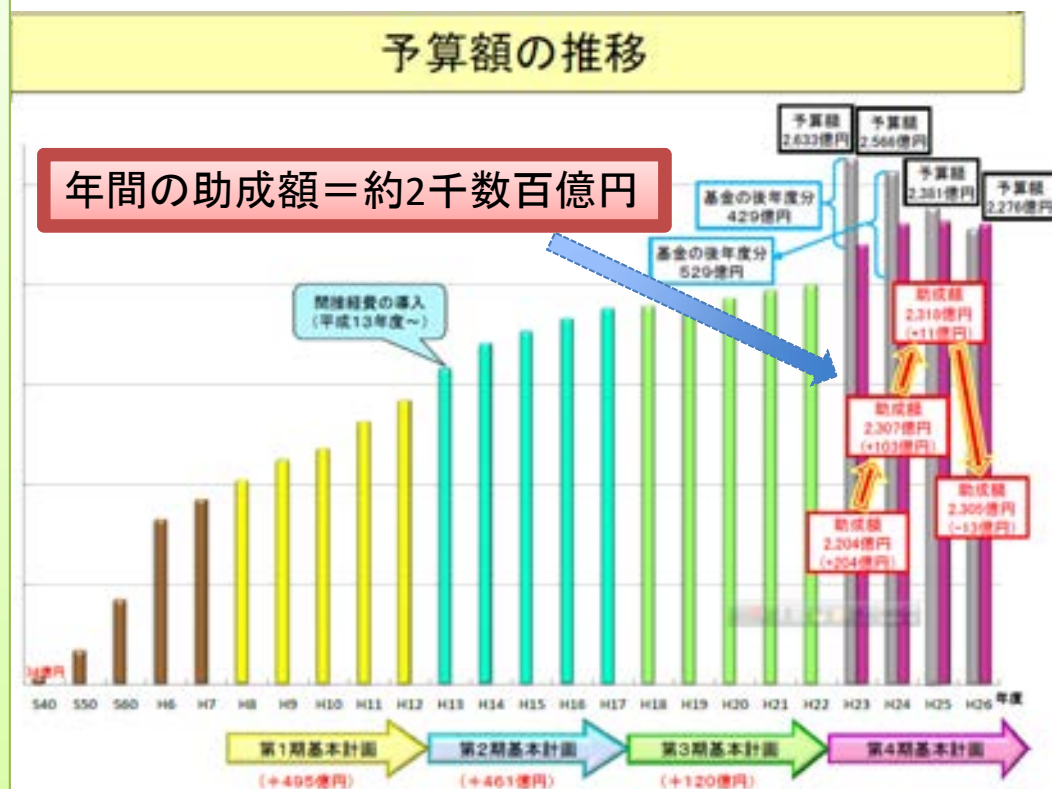
平成26年度外部資金獲得状況

順位	高専No	高専名	共同研究 金額(千円)	受託研究 金額(千円)	受託事業等 金額(千円)	科研費(代表) 件数	科研費(代表) 金額(千円)	知的財産収入 金額(千円)	合計 件数	合計 金額(千円)
1	51	沖 縄	19,402	117,842	2,073	13	16,150	0	52	155,467
2	17	富 山	13,883	30,883	0	29	45,950	113	90	90,829
9	47	熊 本	10,377	3,061	26,266	15	17,160	0	97	56,864
11	50	鹿 児 島	5,050	8,338	14,540	9	26,470	0	864	54,398
12	48	大 分	3,925	15,706	11,537	13	23,140	0	2,557	54,308
14	39	香 川	7,238	1,200	0	21	41,820	132	50	50,390
19	7	仙 台	3,994	7,020	1,080	26	30,360	0	44	42,454
34	45	北九州	9,611	1,992	0	11	14,670	0	25	26,273
36	43	久留米	8,113	0	1,685	11	15,810	0	35	25,608
42	46	佐世保	4,250	2,000	700	10	16,120	0	24	23,070
43	44	有 明	796	4,683	6,589	8	9,890	73	21	22,031
48	49	都 城	3,047	4,051	118	8	8,970	0	29	16,186
		平均	6,912	9,669	3,471	13.8	19,938	57		40,047

※ 平成27年10月高専機構、役員会・企画委員会資料、業務執行状況の定期報告(外部資金)資料より作成

科学研究費補助金(科研費とは?)

- 科学研究費は、人文・社会科学から自然科学まで**全ての分野**にわたり、**基礎から応用までのあらゆる「学術研究」**を格段に発展させることを目的とする**「競争的研究資金」**
- ピア・レビューによる審査**を経て、**独創的・先駆的な研究**に対する**助成**を行うもの
- 科研費は、高専、大学の**評価**のうえで**最重要なindex**の一つ。学校評価、予算配分、競争的資金の採否などに影響。



https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/data/1-1/1-1_h26.pdf

科学研究費補助金の獲得に向けた取り組み

- 「MoCCoS塾」を平成24年5月開始
長岡技術科学大学の「VOS 塾」を参考に創設
(Vitality Originality Services 塾)
科学研究費申請書の相互チェック

Motivation
Creativity
Collaboration
Service

- 科研費テーマ検討会

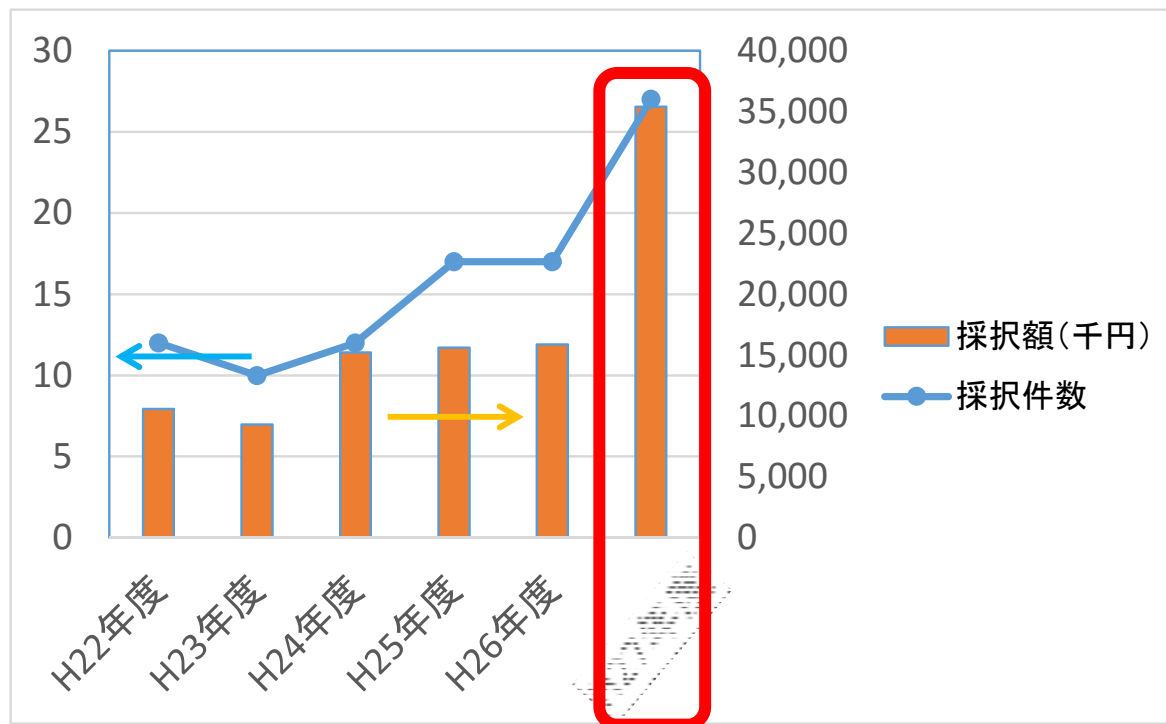
- 科研費講演会



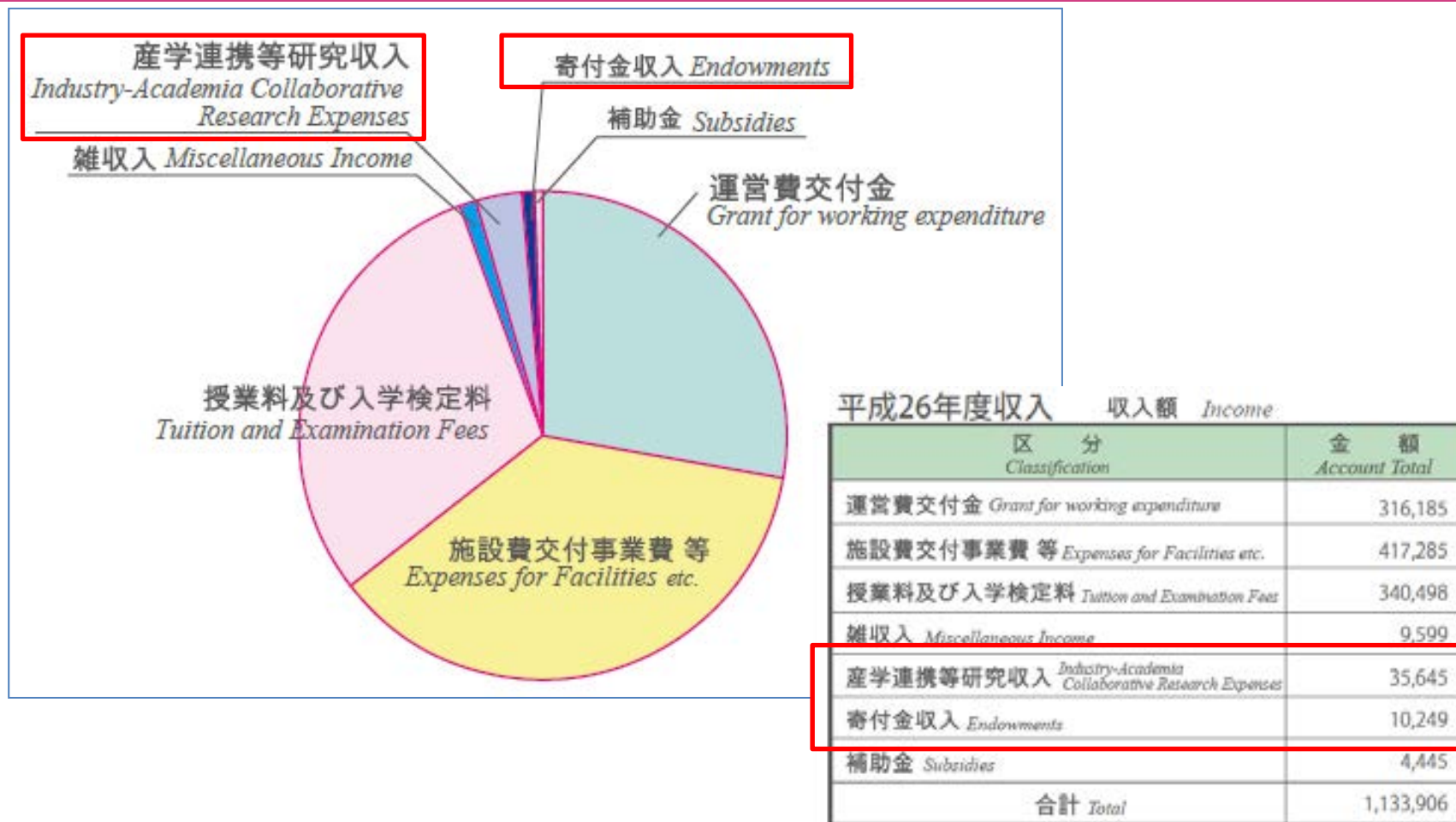
- 校長や産学連携コーディネータによる申請書類レビュー
- 研究推進係, 企画係による書類内容のチェック
- 学内用Webサイトによる「科研費関連情報」の提供

平成22～27年度の科学研究費採択件数および採択額

区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	H27年度
採択件数	12	10	12	17	17	27
採択額(千円)	10,580	9,290	15,200	15,600	15,868	35,380



平成26年度収入における外部資金導入の割合



(単位：千円 *Unit : 1,000 yen*) 17

科学研究費 研究者が所属する研究機関別 採択件数, 配分額一覧
(平成27年度 新規採択+継続分, 代表者)

					(金額単位: 千円)
機関名	採択件数	配分額	間接経費	合計額	[参考,H26合計額]
久留米工業高等専門学校	12	11,998	3,599	15,597	15,810
有明工業高等専門学校	10	10,100	3,030	13,130	9,890
北九州工業高等専門学校	15	17,400	4,920	22,320	14,670
佐世保工業高等専門学校	14	16,700	5,010	21,710	16,120
熊本高等専門学校	27	27,400	7,980	35,380	17,160
大分工業高等専門学校	17	17,300	5,100	22,400	23,140
都城工業高等専門学校	6	5,000	1,500	6,500	8,970
鹿児島工業高等専門学校	14	21,600	4,560	26,160	26,470
沖縄工業高等専門学校	13	10,708	2,820	13,528	16,150
全国の国立高専の平均	15.7	17,320	4,951	22,271	19,938
九州の国立高専の平均	14.0	15,112	4,207	19,318	16,487

高専機構 研究推進・産学連携本部資料(H27.9.16)より作成
※ 「研究活動スタート支援」採択分は一部含まず

・一時期の低迷期を脱して増加傾向にある。ただし、国からの運営費交付金が減少する中で共同研究等の外部資金と同様に、より一層の努力が望まれる。

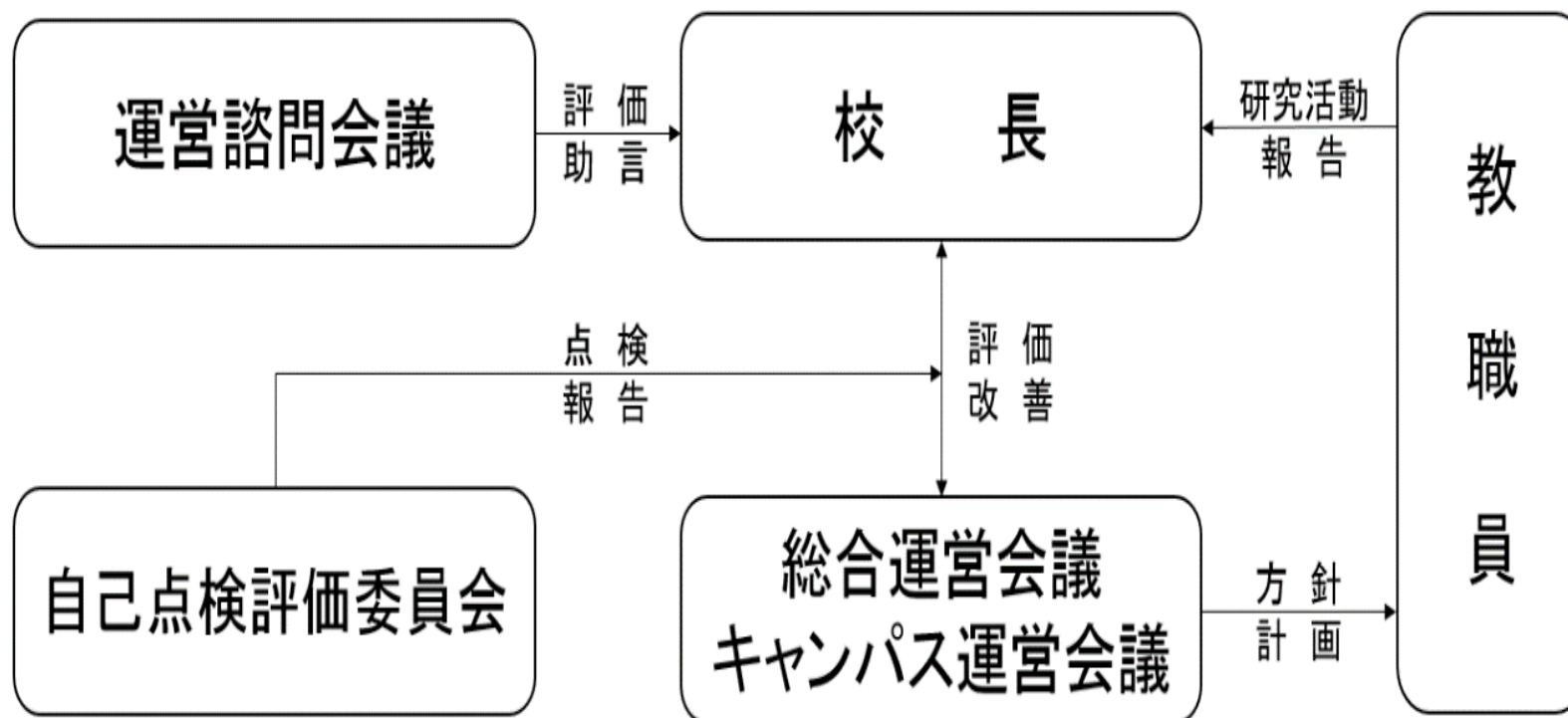
評価の観点③

観点①： 本校の研究の目的に照らして，研究体制及び支援体制が適切に整備され，機能しているか。

観点②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

観点③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し，改善を図っていくための体制が整備され，機能しているか。

研究活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制



教員評価による教員の自己点検

■ 教員評価実施要項

第2条 教員評価は、次の各号に掲げる目的のために実施する。

(1) 教員の意識向上と教育研究活動等の活性化を図る。

(2) 教員表彰及び勤勉手当と昇給の選考の際の参考資料とする。

(教員評価の領域)

第4条 教員評価の評価領域は、教育、研究、社会貢献及び学校運営とする。

(G) 研究

研究の実績値は、過去5年間（平成22年4月～平成27年3月）における研究実績等を表-2に基づいて数値化した評点の合計とする。

表-2 研究実績の評価

評価項目	区分	評点
①著書	筆頭	8
	筆頭外	2
②学術論文（査読あり）	筆頭	5
	筆頭外	2
	学生筆頭論文の指導	3
③研究紀要	筆頭	1
	筆頭外	0.5
	学生筆頭論文の指導	0.5
④国際学会等発表	筆頭	2.5
	筆頭外	0.5
	学生筆頭論文の指導	1
⑤国内学会等発表	筆頭	1
	筆頭外	0.5
	学生筆頭論文の指導	0.5
⑥解説・総説	筆頭	1
	筆頭外	0.5
⑦特許	取得	5
	出願	2
⑧その他	筆頭	1
	筆頭外	0.5

点検結果

観点①(研究・支援体制)

- ・研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能している。

観点②(活動の成果)

- ・学術論文等の数は平均値としては、目標値を超えている。ただし、個人毎にみると未達成の者も多い。
- ・科研費の獲得について、一時期の低迷期を脱して増加傾向にある。ただし、国からの運営費交付金が減少する中で共同研究等の外部資金同様に、より一層の強化が望まれる。

観点③(問題点を把握し、改善を図っていくための体制)

- ・研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能している。